

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択）

令和6年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	筑波大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	インクルーシブなスマートソサエティを創成する国際スタートアップ人材の育成		
	【英文】	Empowering International Startup Talent to Create an Inclusive Smart Society		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏 名)	加藤 光保	(所属・職名)	副学長・理事（教育担当）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	オハイオ州立大学	Ohio State University	米国
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://inclusive-smart-society.edu.tsukuba.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。
（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
① - 1 交流プログラムの内容 ○ISS科目群 オンライン共同基盤講義であるISS概論Ⅰ/Ⅱについては、本学及びOSUの授業担当者、双方の学年暦に応じた開講時期、暫定版シラバスが決定した。他方、ISS-PBLについては、シラバスは決定したものの、OSUにおけるPBLコーディネーターの協力を要請しているところである。3月に各科目を担当する教員と関連する分野から選抜した学生がOSUへ渡航し、各々今後の準備状況を協議した。2024年度秋学期の開講に向けては、OSU教員と協力して動画作成を中心に準備を進めていく。 ○ISSサポートプログラム 秋学期にCOIL型授業「災害から学ぶ」を開講したほか、3月には本学の「数理・データサイエンス・AI教育」に関わる学生とOSUのTranslational Data Analytics Instituteの学生が交流した。しかし、当初の計画とは異なり、①学内周知期間が短かったこと、②時差の問題があること、③質の伴った修了証の発行が難しいことなど、様々な背景で十分な実施が叶わなかった。学生のアクセスしやすいプラットフォームの構築を図りながら、質の伴った修了証を効率的に発行する仕組みを整えることで参加学生を増やしたい。 【特に優れた取組】 ISS関連学問分野から選抜した学生をOSUへ派遣するプログラムを実施した。OSUでは、同分野の学生と交流するとともに、ISSプログラム運営会議に学生代表として参画することで、本事業全体の発展に寄与した。
① - 2 学生主体の国際交流プログラム ○ISSサマーフェスティバル 採択直後から内容や期間等について、OSUと協議を継続して行ってきた。3月にはOSUのOffice of Student Life Esportsを訪問し、ISSサマーフェスティバルにおける大陸を超えたesports/para esports大会の開催を模索したが、教育的効果を生み出す必要性、通信環境の不安等の課題があるため2025年度の開催に向けて議論を継続することとした。他方、プラットフォームとしてRemoを採用する方針で決定し、教員による監督の下、総合理工学学位プログラムの学生が中心となって運営を担うこととなった。また、展示コンテンツについても、運営委員の学生の提案から、一部公募する形式にした。7月27-29日の開催に向けて、学生を中心に準備を進めていく。総じて、本事業における学生主体の国際交流プログラムの進捗状況については、内容に一部の変更があるものの、学生主体で取り組むという主旨に鑑みれば、順調といえる。 【特に優れた取組】 2024年7月に開催を予定しているISSサマーフェスティバルは、学生が企画運営の中心的役割が担って準備が進められている。教員は監督指導、職員はプラットフォーム契約等の重要な諸手続きを担い、学生を支える体制が整っている。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム ○JV-Campus 2024年度秋学期のISS科目群開講に向けて、JV-Campus事務局との連携を開始し、非同期型の交流方法として「フォーラム」を活用していくことを確認した。3月には本プログラム用のコンテンツ登録アカウントを作成のうえ、ISS概論Ⅰ/Ⅱ及びISS-PBLのコース枠組みを作成し、シラバスに記載されている内容を反映した。また、JV-Campusを通じてプログラムに参加した学生に、デジタルバッジを提供できるよう準備を進めている。総じて、本事業におけるオンラインを活用した取組の進捗状況は順調といえる。 各学生のJV-Campusへの登録からデジタルバッジの発行までの流れを検証するために、5月にOSUから工学系の学生を受け入れる際に試行事業を実施する方針である。各科目の講義動画については、2024年度夏から秋にかけて順次、作成・アップロードする予定である。 【特に優れた取組】 JV-Campus事務局と早々に協力体制を構築した。2024年度秋学期から開講する科目群のコンテンツを共に検討し、日米の時差を考慮した交流方法として「フォーラム」を活用した非同期型の文字によるアクティブラーニングの実施に向けて準備を進めている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

○総合智教育推進委員会による科目開設許可

本事業の核となるISS概論Ⅰ/Ⅱ及びISS-PBLを2024年度秋学期に開講するため、本学の総合智教育推進委員会の総合科目専門部会、大学院共通科目部会にそれぞれ科目開設申請を行い、2月までに両部会にて開設が承認された。開設申請にあたっては、事前にOSUと協議して作成した暫定版シラバスを提出しており、科目内容の質が審査されている。他方、当初OSUで想定していたGeneral Education科目としての設置は日米における教育組織やカリキュラムの構造上の違いから断念し、自由科目としての設置となった。2025年度のGeneral Education科目設置に向けて、科目の在り方を引き続き協議したい。

○EntreCompを基準としたルーブリックの策定

EntreCompについては情報収集を行っている段階であり、当初計画していたルーブリック案の作成に至らなかった。2025年1月開講のISS-PBLにおけるルーブリック評価の試行に向けて、適切に担当を定めて集中的に作業させることで遅延を取り戻したい。

【特に優れた取組】

ISS科目群は特定の教育組織の下ではなく、学群及び大学院の共通科目として設置された。設置にあたっては、総合智教育推進委員会等で授業概要や成績評価、授業外学修などの教育の質に係る事項が審査された。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○事務局の設置

支援体制を確立するため、12月に会計を担当する事務職員1名を、1月に専任コーディネーターを担当する事務職員を2名を採用した。専任コーディネーターは2名はいずれも米国圏に在住経験があり、言語のみならず文化的側面においても学生を支援することができる。

○日本人学生の派遣

3月に本学の学生をOSUに派遣するにあたり、前もってOSUの関係教員及び職員との間で派遣と受入のプロセスについて情報共有を行った。派遣する学生に対しては、本プログラムに関わる指導教員とおおまかなスケジュールを組み立てさせることにより、危機管理を促すと同時にOSU渡航の目的を明確化させた。また、派遣後にふりかえりを行う機会として、活動報告書を日英両言語で作成してもらった。報告書の一部は学生本人の了解を得たうえ、HPに掲載しており、今後渡航する学生の参考となる。以上から、派遣前～派遣中～派遣後の危機管理や教育に関わる環境整備は十分に整えられていると評価できる。他方、航空券や宿泊施設の手配、ESTAの取得支援、学生の出張申請、これらに伴う派遣学生や各支援室との書類のやりとり等、煩雑な事務処理が業務を圧迫することを経験し、作業工程を見直して効率化する必要がある。外国人学生の受入でも同様の事態が想定されるため、留意して環境を整備したい。

【特に優れた取組】

専任コーディネーター2名、会計担当1名の運営事務局を設立し、受入及び派遣に係るワンストップ体制を構築した。運営事務局のみに負担がかからないよう、教育推進部、国際室、学生部、各支援室等と連携して業務を遂行している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

○webサイトの作成

3月に本事業のwebサイトを日英両言語対応で立ち上げた。コンテンツには、事業概要、ニュース及び参加学生の声がある。先述したとおり、すでに3月に渡航した学生の活動報告が掲載されており、情報の公開と成果の普及が計画通りに進捗しているといえる。

【特に優れた取組】

webサイト開設と同時期に派遣学生の活動報告を掲載することにより、2024年度新入生等を対象にいち早く学生目線の情報を届けた。

(2) 特記すべき成果

JV-Campusの活用については2023年度からJV-Campus事務局と協力して検討していたが、2024年4月から本学内で新たに組織化されたJV-Campus連携室とも協力体制を構築した。2024年5月にOSUから工学系の学生を受け入れた際には、本プログラムに参画する本学とOSU双方の学生がJV-Campusに作成したコースを受講登録した。当該コースにおいては、事前学習として自身の関心領域を投稿してもらうほか、日本に関する質問を投稿してもらった。また、日々の活動をJV-Campusに記録するほか、本学学生の研究内容を投稿し情報交換を行った。一連の研修が終了した際には、希望者に対してデジタルバッジを修了証として交付した。修了証には、学修成果等の情報が記載されている。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	110	100	720	360	825	415	925	465	925	465	3505	1805
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	10		20	10	25	15	25	15	25	15	105	55
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	100	100	700	300	800	300	900	300	900	300	3400	1300
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）				50		100		150		150	0	450

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	110	100	720	360	825	415	925	465	925	465	3505	1805
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	10	0	20	10	25	15	25	15	25	15	105	55
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	100	100	700	300	800	300	900	300	900	300	3400	1300
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	50	0	100	0	150	0	150	0	450

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	17	15	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	11	3								
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	6	12								
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	15%	15%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			2	12	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン		2	12								
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			15	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		11	3								
	オンライン		4									
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

実渡航の派遣人数については計画以上の進捗となっている。一方、オンラインによる派遣人数は、「1. 取組内容の進捗状況」の「① - 1 交流プログラムの内容」に詳述したとおり、計画を大幅に下回っている。学生のアクセスしやすいプラットフォームの構築を図りながら、質の伴った修了証を効率的に発行する仕組みを整えることで参加学生を増やしたい。

【特に優れた取組】

ISS関連学問分野から選抜した学生をOSUへ派遣するプログラムを実施した。OSUでは、同分野の学生と交流するとともに、ISSプログラム運営会議に学生代表として参画することで、本事業全体の発展に寄与した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

実渡航については当初、2023年度の受入は想定していなかったが、本学の他プログラムとの連携によって受入が実現した。一方、オンラインによる受入人数は、「1. 取組内容の進捗状況」の「① - 1 交流プログラムの内容」に詳述したとおり、計画を大幅に下回っている。繰り返しとなるが、学生のアクセスしやすいプラットフォームの構築を図りながら、質の伴った修了証を効率的に発行する仕組みを整えることで参加学生を増やしたい。

【特に優れた取組】

本学の人工知能科学研究センターや数理・データサイエンス・AI教育推進室と連携し、OSUのTranslational Data Analytics Instituteを受け入れ、学生交流を行った。

(2) インターンシップの実施状況について												
①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	10	6	10	6	12	8	32	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）					10	6	10	6	12	8	32	20
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	10	6	10	6	12	8	32	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	10	6	10	6	12	8	32	20
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）												
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）												
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）												
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

[illegible]

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

当期事項なし

【特に優れた取組】

当期事項なし

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

当期事項なし

【特に優れた取組】

当期事項なし

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

（５）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（i）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

（単位：校）

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
オハイオ州立大学	認定者数	A(学部生)		450	450	450	450
	認定単位数	A(学部生)		450	450	450	450
オハイオ州立大学	認定者数	B(大学院生)		50	50	50	50
	認定単位数	B(大学院生)		50	50	50	50
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	500	500	500	500
年度別認定単位数合計			0	500	500	500	500

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（i）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

（単位：校）

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	1								

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（i）代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
オハイオ州立大学	認定者数	B(大学院生)	2				
	認定単位数	B(大学院生)	2				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			2	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			2	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択） 令和 6 年度フォローアップ調査票				
大学名 (○が代表大学)	東京外国語大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	太平洋を「架橋」するブリッジ・パーソン養成プログラム		
	【英文】	TUFS Training Program for Trans-Pacific Bridge Persons (TP-Bridge)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	春名 展生	(所属・職名)	副学長
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://www.tufs.ac.jp/tp-bridge/				

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

① - 1 交流プログラムの内容

本交流プログラムには、オンラインと対面をベースとした様々な形態の活動が含まれている。留学生と日本人学生が本学でともに講義を受講するオンキャンパス交流、COIL型授業を通じたオンライン学生交流、インターンシップやソウル研修での韓国人学生との交流を含むオンサイト交流などである。2023年度は、米国及びフィリピンの海外連携大学への学生派遣、次年度のプログラム実施に向けた受入予定学生対象の事前学習の提供、インターンシップ参加者の募集及び事前学習の実施、連携校との調整等を行った。今後は、プログラム参加者の学修達成状況の把握及びサポート体制を強化するとともに、プログラム関係者間の更に緊密な連携体制を整える。

【特に優れた取組】

2023年度は、米国及びフィリピンの連携校に長期2名、短期11名を派遣した。また、次年度のプログラム実施に向け、中長期受入予定学生を対象としたオンライン事前学習の提供、インターンシップ参加者の募集及び事前学習の実施、円滑な学生交流の実施に向けた海外連携大学との調整等を行った。

① - 2 学生主体の国際交流プログラム

本事業の映像翻訳実務型インターンシップでは、参加学生が主体となった映画上映会・トークイベントの実施を計画している。2023年度は、4月からのインターンシップ開始に向けて参加学生を決定するとともに、ハイブリッド形式でのオリエンテーション・事前学習を複数回実施して参加学生の交流の機会を設け、学生が主体的にコミュニケーションを取りやすい環境を整えた。引き続き、インターンシップ先企業と連携して、学生の主体的な交流を支援していく。

【特に優れた取組】

2024年度実施の映画上映イベント開催に向け、参加登録を完了した学内外の学生55名のに対し事前研修として交流の機会を設け、学生が主体的にコミュニケーションを取りやすい環境を整えた。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

4月から受入予定の学生に対し、日本での留学生生活を支援するため、渡日前に本学が開発した約6回のオンデマンド日本語講座（OPJLC）を提供した。実践的な会話練習も可能な6回のオンライン・スクーリングを行うことで時差に配慮しつつ、日本語学習へのモチベーション向上を図った。また、本学で行う授業科目の一部を海外相手大学と共同開講することで、双方向の質保証の伴ったオンライン教育を実施した（COIL型授業）。2023年度は、カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）及びカリフォルニア州立大学ノースリッジ校（CSUN）とCOIL型授業を行い、日本人学生178名、パートナー校の学生179名が参加した。次年度以降のCOIL型授業の拡充に向け、連携校教員との調整、学内調整をさらに推進していく。

【特に優れた取組】

渡日前の事前学習としてのオンライン日本語講座は基礎レベルを2つのクラスに分け、Moodleを活用して講師が学習の進捗管理を行い、モニタリングした。到達目標に達した学生には修了証を発行することで、学習と参加を促した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本事業は、質の保証を前提とした大学間協定のうえに成立している交換留学を基盤として設計されている。本事業の海外相手大学のうち、9大学とは授業料の相互不徴収と単位の相互認定を含む学生交流協定を締結済みであり、残る2大学とも新たな学生交流協定締結に向けた協議を開始した。また、プログラムの質保証のため、本学教職員11名からなるプログラム実行委員会及びワーキンググループ（WG）を組織するとともに、その推薦で多様な専門性を持つ5名の委員からなる外部評価委員会を設置し、継続的にプログラムの問題点と改善点を把握できるよう、両委員会を随時実施している。次年度以降も、WGを定期的に開催するとともに、外部評価委員会での指摘を受けて事業の改善を随時行う計画である。

【特に優れた取組】

WG3回、外部評価会議1回実施し、WGで本事業の実施計画及び進捗状況の審議を行うとともに、外部評価委員会から評価とフィードバックを受け、プログラムを改善し、質を保証する土台が整った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業は全学的な責任・協力体制の下で推進されている。事業実施にあたり、事業責任者である副学長(国際、国際教育等担当)を長とするWGを、学長・部局長等で構成される総合戦略会議と直結した教育アドミニストレーション・オフィスの下に設置した。協定校との連携強化にあたっては国際化拠点室の、交流プログラムの運営にあたっては教務課の、学生派遣・受入については留学生課の支援を受けられる体制を整備した。また、2024年度開講のオンキャンパス・プログラムの実施に向け、4分野のTrans Pacific Studies (TPS) からなる科目体系を整え、計42科目の開講を決定した。

【特に優れた取組】

2023年度においては、2024年度春学期に本学で開講するオンキャンパス・プログラムの実施に向け、4分野のTrans Pacific Studies (TPS) からなる科目体系を整え、計42科目の開講を決定した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本学教職員を米国7大学、フィリピン3大学に派遣し、本プログラムの広報と協力体制構築に関する協議を行うとともに、現地学生を対象に説明会を開催し、受入学生の増加に努めた。同時に、その他の外国大学関係者にも広報を行い、新たな学生交流先の開拓にも取り組んだ。本事業の広報については、ウェブサイトの開設、パンフレットの作成・配布を日英2言語で行っている。また、文理の枠を超えた学際的なプログラム構築のため、電気通信大学の協力によりTPS3：サステナビリティ・スタディーズ分野にリレー形式の講義1科目を整備したほか、東京大学先端科学技術研究センターとの協力に向けた協議を開始し、国内大学との連携と横展開を強化した。

【特に優れた取組】

電気通信大学の協力によりTPS3：サステナビリティ・スタディーズ分野にリレー形式の講義1科目を整備したほか、東京大学先端科学技術研究センターとの協力に向けた協議を開始し、国内大学との連携と横展開を強化した。

（２）特記すべき成果

学生が専攻分野に限定されない総合的な視野を確保し、多角的な問題解決の能力を育てることができ、学際的なオンキャンパス・プログラムを提供した。特に、電気通信大学の協力により、TPS3：サステナビリティ・スタディーズ分野に1科目を新設することで、学生が現在注目を集めるエネルギー分野で環境問題やエネルギー産業の動向を理解し、未来に備える機会を提供することが可能となった。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計人数

[illegible]

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

[illegible]

③：【交流形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			8	0	14	0	14	0	19	0	19	0
	実渡航	A(学部生)	8	0	14	0	14	0	19	0	19	0
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			90	70	181	73	185	120	250	155	250	185
	実渡航											
	オンライン	A(学部生)	90	70	181	73	185	120	250	155	250	185
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	0	10	7	11	10	16	15	16	15
	実渡航	A(学部生)	2	0	10	7	11	10	16	15	16	15
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	11	0								
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			178	179	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン	A(学部生)	178	179								
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	2	0								
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度は、長期2名（サンディエゴ州立大学（SDSU）及びネブラスカ大学カーニー校（UNK））、短期11名（SDSU、サンフランシスコ州立大学（SFSU）、ハワイ大学マノア校（UH-Manoa）、デラサル大学（DLSU））の学生を派遣した。また、カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）及びカリフォルニア州立大学ノースリッジ校（CSUN）と実施したCOIL型授業5科目に178名の学生が参加し、米国学生と交流した。これにより、実渡航、オンラインともに計画数を上回る成果を得た。

【特に優れた取組】

長期派遣及び短期派遣対象者に対してのプログラム説明会を実施するとともに、オンラインを活用した米国協定校とのCOIL型授業の実施により、より多くの日本人学生が米国学生との交流に参加できる環境を整えた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度は、COIL型授業の実施により、UCI学生125名、CSUN学生54名が本学学生と交流した。また、2024年度4月から7名の学生を受け入れることを決定、2月に本学学生も含め交流の機会となるキックオフミーティングをオンラインで開催した。

【特に優れた取組】

協定校への訪問の機会を活用し、各協定校現地学生に対するオリエンテーションを実施し、オンライン、オンキャンパス、オンサイトから成る3部構成のプログラムの魅力を直接説明する活動を実施するとともに、担当教員間の交流とプログラムへの理解の深化を図った。

(2) インターンシップの実施状況について												
①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	10	7	11	10	16	15	16	15	53	47
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	10	7	11	10	16	15	16	15	53	47
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	10	7	11	10	16	15	16	15	53	47
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	10	7	11	10	16	15	16	15	53	47
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0										
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	0	0										
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

③：【参加形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

[illegible]

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

- ・2024年度からのインターンシップ実施に向け、日本映像翻訳アカデミー株式会社（JVTA）と調整を重ね、インターンシップ実施に関する産学協働協定締結に到った。
- ・1月から3月まで、参加学生の募集を行い、本学学生36名が応募した。なお、募集は国内他大学にも開放し、協力大学である電気通信大学からの2名を含む6大学12名が応募している。
- ・3月に参加予定学生の事前学習と交流の機会となるハイブリッド型オリエンテーションを3回実施した。

【特に優れた取組】

2024年度秋学期派遣予定学生を含む学生に映像字幕翻訳インターンシップの機会を提供することで、留学前に英語の専門性を高め、外国人学生とチームを組んで協働する経験を積むことができる環境を整えた。また、国内外の他大学の学生にも開放することで、多様性とグローバルな視座を合わせ持った人材育成を推進する体制を整えることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

- ・本事業で実施するインターンシップの主要な活動はオンラインで行うため、海外からも参加可能であるため、協定校でもインターンシップを広報し参加者を募集した。
- ・2024年度に向けた参加学生募集では、海外連携大学から6名（うち3名は4月に実渡航での受入を予定している学生）が参加を登録したほか、その他の海外大学からも1名の登録を得た。

【特に優れた取組】

海外連携大学の学生のインターンシップ参加を円滑に進めるため、オンラインを活用した渡日前オリエンテーション及び参加学生間の事前交流の機会を設定した。また、国内外の大学に機会を開放することにより、専門や使用言語の異なる学生同士が協働し、互いに学びあう国際的な共修の環境を整えることができた。

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
	該当なし	
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績										
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】										
(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】(単位：校)										
単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0	7	6	8	9	8	10	8	10
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)										
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】										
1. 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】										
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度			
サンディエゴ州立大学	認定者数	A(学部生)	0	1	1	1	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	4			
カリフォルニア州立大 学ノースリッジ校	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	4	4	4			
サンフランシスコ州立 大学	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	4	4	4			
ハワイ大学マノア校	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	4	4	4			
ネブラスカ大学カー ニー校	認定者数	A(学部生)	0	1	1	1	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	4			
フィリピン国立大学	認定者数	A(学部生)	0	0	0	1	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	2	4			
アテネオ・デ・マニラ 大学	認定者数	A(学部生)	0	0	1	1	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	2	2	4			
デラサール大学	認定者数	A(学部生)	0	0	1	1	2			
	認定単位数	A(学部生)	0	0	2	2	4			
年度別認定者数合計			0	2	10	11	16			
年度別認定単位数合計			0	4	20	22	32			
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】										
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度			
	認定者数									
	認定単位数									
	認定者数									
	認定単位数									
	認定者数									
	認定単位数									
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0			
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0			

【2023年度末における目標の達成状況】										
(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】(単位：校)										
単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0								
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)										
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】										
(i) 代表申請大学 【大学名：東京外国語大学】										
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度			
サンディエゴ州立大学	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
カリフォルニア州立大 学ノースリッジ校	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
サンフランシスコ州立 大学	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
ハワイ大学マノア校	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
ネブラスカ大学カー ニー校	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
フィリピン国立大学	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
アテネオ・デ・マニラ 大学	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
デラサール大学	認定者数	A(学部生)	0							
	認定単位数	A(学部生)	0							
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0			
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0			
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】										
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度			
	認定者数									
	認定単位数									
	認定者数									
	認定単位数									
	認定者数									
	認定単位数									
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0			
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0			

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択）

令和6年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京藝術大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	STEAM教育を活用した情報メディア革新時代の日米映像クリエイター育成		
	【英文】	STEAM-Driven Japan-U.S. Joint Program for Innovative Visual Media Creators		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	岡本 美津子	(所属・職名)	東京藝術大学・副学長
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://games.geidai.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

① - 1 交流プログラムの内容

本プログラムでは 最先端 ICT を最大限活用するメディア芸術表現を実現できる国際的人材を育成するためには芸術のみならず工学・技術なども包括していく必要があり、アートとテクノロジーの融合教育を一層強化し、STEAM 教育の充実を図る。

2023年12月にはUSC（米ロサンゼルス）にて本学学生による作品プレゼンを行い、USC映画芸術学部インタラクティブアート&ゲームズ学科およびコンピュータサイエンス学部の学生との意見交換・相互コメントを実施した。

2024年3月にはUSC教員および学生を招聘し、共同1 Dayワークショップを実施し、日米混成3チームによる共同ゲーム制作を行った。また同作品を制作者である日米学生の主体的計画のもと、本学のゲームコース展にて展示し、学内外の多くの方々に鑑賞してもらう機会を設けた。（来館者合計550名程度）。

また同月にはUSC教員2名と世界的に著名なスイス人ゲームデザイナー/映像作家をお呼びしての本学学生作品の講評会を実施・講評会・共同展示を行い、国際的かつ高水準での学習につながられた。

【特に優れた取組】

USC教員および学生を招聘し、共同1 Dayワークショップを実施した。USC教員によるレクチャー部分では、USCの教育現場でも取り組まれている世界基準のアイディエーションや実装へのプロセスに関する思考や方法の共有が行われた。成果として、日米混成3チームによる共同制作ゲーム作品が完成し、本学ゲーム展でも展示し、多くの反響を得た。

① - 2 学生主体の国際交流プログラム

日米混成3チームによる共同ゲーム制作を行った。発案から実装まですべての工程を日米学生が主体で実施した。USC学生の所属は映画芸術学部インタラクティブアート&ゲームズ学科修士学生、コンピュータサイエンス学部修士学生、そして映画芸術学部メディアアーツ&プラクティス博士学生であり、本プログラムの目標であるアートとテクノロジーの融合を、日米学生コラボレーションにおいても実現できた。

【特に優れた取組】

日頃関わっている芸術系修士学生だけでなく、コンピュータサイエンス学部修士学生や博士学生とも意見交換をしながら共同制作を実施したことで、本学学生にとってはコンピュータサイエンスとしての制作プロセスにおける視点や知見を得ることができた。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

今年度は「芸術と情報」、「ゲーム概論」をオンライン講義として実施した。

「芸術と情報」では、産業界のアーティストやエンジニアによるオンライン講義を実施し、最先端の情報メディアコンテンツの制作・開発現場の知見を得る内容となった。

【特に優れた取組】

今年度の「ゲーム概論」の講義の中で、京都で開催されている国内最大のインディーゲームの祭典「BitSummit」の関連催事「art bit」というアート×ゲームの展覧会の現場からの生中継が行われるなど、オンラインならではの試みが行われ、学生らにとっても最先端を生で見る刺激的な内容になった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

カリキュラムの計画・実施・管理等を総合的に担う役割として、USC 映画芸術学部長および東京藝大学長の元、日米双方の全教員・スタッフが参加する「Geidai×USC コラボ委員会」を設置し、ビジョンや全体計画の策定と共有を開始した。

事務局として、英語による指導と先方との交渉が可能な専任教員を日本側で1名雇用し、包括的なマネジメントを行う体制を整えた。また、本学大学院映像研究科に在籍している南カリフォルニア大学映画芸術学部出身教員を当プログラムの主任に配置し、より密接な交流を行う準備を整えた。

また本学教員が渡米・現地調査し、ニューヨーク大学ゲーム学科およびストロングミュージアムを訪問した。各所で現場の見学と意見交換を実施し、今後の本プログラムをさらに充実させるための知見を得た。

【特に優れた取組】

2023年12月のUSC訪問に際しては2024年3月に渡航する予定のUSC学生を招集し、包括的マネジメントを実施する専任教員による事前勉強会を実施した。

また現地ではUSCが実施しているプレイテスト会に本学学生・教員が特別に参加させてもらい、世界最高水準の教育を誇る米大学における最先端の実践現場を経験することができ、また今後の本プログラムの発展のための知見を得られた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

USC訪問に際しては事前に渡航する学生を招集し、包括的マネジメントを実施する専任教員による事前勉強会を実施。一人ひとりに対してプレゼン資料制作のフォロー・添削、また英語によるプレゼン練習とその指導を実施した。

またUSC訪問時には日米両学生がのちにコラボレーションする学生と顔合わせをし、お互いのこれまでの活動を紹介する時間を設け、米国学生招聘のための準備をした。顔合わせ後はオンラインでコミュニケーションがとれるプラットフォームを作成し、日本からの派遣学生と米国からの受け入れ学生および日米教員の全員が、のちの米国からの招聘時までの準備のためのやり取りが円滑にできる仕組みを作成した。

USC学生招聘に際しては、ワークショップに使用する機材、制作室等を事前に準備しておき、スムーズな進行ができた。またUSC学生が日本のメディア芸術文化に触れられるよう、ジブリ美術館へ引率するなどの機会も設けた。

【特に優れた取組】

USC訪問時には日米両学生がのちにコラボレーションする学生と顔合わせをし、お互いのこれまでの活動を紹介する時間を設け、米国学生招聘のための準備をした。のちにコラボレーションする相手に実際に対面することで、本学学生は国際的な視点での自分のクリエイターとしてのアイデンティティを認識することができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2024年4月に実施した日米学生コラボレーション作品は本学のゲームコース展で展示し、学内外の多くの方々に鑑賞してもらう機会を設けられた。また芸大×USCのコラボレーションの取り組みとして同ゲームコース展のウェブサイトで公開している。(https://games.geidai.ac.jp/05/#geidaiusc)

【特に優れた取組】

2024年3月に完成した日米学生コラボレーション作品は本学の「ゲームコース展05」で展示し、学内外の多くの方々に鑑賞・体験してもらう機会を設けられた。来館者は3日間合計で約550名に上り、大きな反響を得ることができた。

(2) 特記すべき成果

今年度および過去の藝大×USCコラボレーション制作に参加した現役生・修了生による受賞例：

- ・2023年度参加生 クワ ウケン監督作品「Shape of the Elephant」がひろしまアニメーションシーズンに入選
- ・2022年度参加生 山根風馬の1年次制作「Whale Fall」がInternational Students Creative Awardsでナレッジキャピタル賞を受賞
- ・2020年度参加生 ゆはらかずきの修了制作「Monad」がIndieCadeにノミネート
- ・2019年度参加生 呉ゲツキの修了制作「Small Life」がIndie Game Festivalにノミネート

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

① プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	150	25	180	65	180	65	180	65	180	65	870	285
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	145	20	175	60	175	60	175	60	175	60	845	260
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	150	25	180	65	180	65	180	65	180	65	870	285
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	145	20	175	60	175	60	175	60	175	60	845	260
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25

② プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	141	25	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	135	0								
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	6	25								
達成目標に対する実績の割合	94%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調査分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			135	19	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		135	0								
	ハイブリッド		0	19								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			6	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		6	6								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年12月にUSC（米ロサンゼルス）を訪問し、本学学生による作品プレゼンを行い、USC映画芸術学部インタラクティブアート＆ゲームズ学科およびコンピュータサイエンス学部の学生との意見交換・相互コメントを実施した。

USC訪問に際しては事前に渡航する学生を招集し、包括的マネジメントを実施する専任教員による事前勉強会を実施。一人ひとりに対してプレゼン資料制作のフォロー・添削、また英語によるプレゼン練習とその指導を実施した。

またUSC訪問時には日米両学生が2024年3月にコラボレーションする予定の学生と顔合わせをし、お互いのこれまでの活動を紹介する時間を設け、米国学生招聘のための準備をした。顔合わせ後はオンラインでコミュニケーションがとれるプラットフォームを作成し、日本からの派遣学生と米国からの受け入れ学生および日米教員の全員が、のちの米国からの招聘時までの準備のためのやり取りが円滑にできる仕組みを作成した。

【特に優れた取組】

USC訪問時には日米両学生がのちにコラボレーションする学生と顔合わせをし、お互いのこれまでの活動を紹介する時間を設け、米国学生招聘のための準備をした。のちにコレボレーションする相手に実際に対面することで、本学学生は国際的な視点での自分のクリエイターとしてのアイデンティティを認識することができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年3月にはUSC教員および学生を招聘し、共同1 Dayワークショップを実施し、日米混成3チームによる共同ゲーム制作を行った。発案から実装まですべての工程を日米学生が主体で実施した。USC学生の所属は映画芸術学部インタラクティブアート＆ゲームズ学科修士学生、コンピュータサイエンス学部修士学生、そして映画芸術学部メディアアーツ＆プラクティス博士学生であり、本プログラムの目標であるアートとテクノロジーの融合を、日米学生コラボレーションにおいても実現した。

USC学生招聘に際しては、ワークショップに使用する機材、制作室等を事前に準備しておき、スムーズな進行ができた。またUSC学生が日本のメディア文化に触れられるよう、ジブリ美術館へ引率するなどの機会も設けた。

また同月にはUSC教員2名と世界的に著名なスイス人ゲームデザイナー/映像作家をお呼びしての本学学生作品の講評会を実施・講評会・共同展示を行い、国際的かつ高水準での学習につながった。

【特に優れた取組】

2024年3月に、USC学生が来日し、日米学生のコラボレーションによる作品制作を実施、完成した作品は本学の「ゲームコース展05」で展示し、学内外の多くの方々に鑑賞・体験してもらう機会を設けられた。来館者は3日間合計で約550名に上り、大きな反響を得ることができた。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調査分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

インターンシップは実施していない。

【特に優れた取組】

インターンシップは実施していない。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

インターンシップは実施していない。

【特に優れた取組】

インターンシップは実施していない。

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
南カリフォルニア大学	認定者数	B(大学院生)	10	20	20	20	20
	認定単位数	B(大学院生)	40	160	160	160	160
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			10	20	20	20	20
年度別認定単位数合計			40	160	160	160	160

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	1								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
南カリフォルニア大学	認定者数	人(学部生または大学院生)	135				
	認定単位数	人(学部生または大学院生)	284				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			135	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			284	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択） 令和6年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	金沢大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	多層型日米連携協働教育プログラムによる次世代グローバル人材育成		
	【英文】	Multi-Layered Educational Programs between Japan-the U.S. for Revolutionary New Global Human Resources		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	林 宜仁	(所属・職名)	副学長（国際担当）
	(交替年月日)	令和6年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://ustenkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。	
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望	
① - 1 交流プログラムの内容	高大接続・入試改革と連動したAP科目の導入と学士課程学生を対象としたAP科目設定の検討、共通教育/学士専門教育におけるCOIL教育の導入準備、専門教育・大学院課程における「COIL+実渡航+COIL」型授業の実施及び導入準備を行った。「COIL+実渡航+COIL」型の「地域開発計画プログラム」では、 <u>ニューヨーク州立大学バッファロー校（以下「UB」）から学士課程3名及び大学院博士前期課程4名を受け入れ、「学校教育協働体験プログラム」では、コロラド大学コロラドスプリングス校へ学士課程3名を派遣した。</u> 実施内容について、本学教員及び事務系職員が米国大学担当者らと連絡調整を行い、実渡航のないプログラムについても、担当教員が渡米（訪日）し、内容の調整及び検討を重ねた。
【特に優れた取組】	2プログラムについて、専門教育・大学院課程における「COIL+実渡航+COIL」型授業を実施した。「 <u>地域開発計画プログラム</u> 」では、 <u>伝統建築や市街地のフィールドトリップ</u> 、「 <u>学校教育協働体験プログラム</u> 」では、 <u>パブリックスクールを訪問する等、多彩なプログラムを実施した。</u>
① - 2 学生主体の国際交流プログラム	本事業で来日する学生と本学学生の交流活性及び国際共修のため、受け入れ初日と最終日に交流イベントを開催した。オープニングレセプションでは、双方の学生が親交を深め、翌日以降のグループワークが円滑に実施された。今後もこれらのイベントを受け入れ期間の前後に組み入れ、実施する。
【特に優れた取組】	受け入れ時のオープニングレセプションで、 <u>本学教員が金沢市の地理や歴史を紹介するプレゼン</u> を行い、実際に金沢市街を巡るグループワークにおける予備知識を提供し、好評を得た。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム	「 <u>日本文化・地域体験プログラム</u> 」では、事業開始後直ちにオンラインコース用に開発したコンテンツをJV-Campusを利用した運用とする準備を開始した。当該プログラムは、日本MAB計画連携大学間ネットワーク（JU-MAB）と連携しており、JU-MABとして世界遺産と地域課題に関するオンラインコンテンツをJV-Campusへ提供し、そのコンテンツを活用した海外大学との交流プログラムの充実を目指す。
【特に優れた取組】	「 <u>日本文化・地域体験プログラム</u> 」の事前研修用教材及び学生目線で本学を紹介する動画コンテンツについて、 <u>JV-Campusへの提供を開始した。</u>
② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成	ルイジアナ大学ラファイエット校と大学間学生交流協定覚書締結の準備を進めた。締結後は交流実績を積み、DDPの協定締結を目指す。また、高校生を対象としたAdvanced Placement（AP）科目の設定において、高大接続COILプログラム新設の検討を行った。
【特に優れた取組】	事業運営委員会において、本事業で養成する人材像が備えるべき能力のうち、プログラムを問わず共通して獲得すべき4つの能力についてルーブリックを検討・作成した。また、2024年度からのBEVI本格運用に向け、 <u>説明動画の設置等、利用に向けた調整を行い、プログラム参加学生がオンラインで回答するシステムを整え、2023年度においても、派遣プログラムの一部で測定を実施した。</u>

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業パートナー大学のひとつであるネブラスカ大学リンカーン校と2023年10月に大学間国際交流協定を締結した。実渡航を伴う各プログラムにおいては、自治体や地域の教育機関、NPO法人等と実施に係る詳細な打ち合わせを行ったほか、受入留学生のホームステイについて、公益財団法人金沢国際交流財団と調整を行い、実施のための具体的な相互協力体制を整備した。また、AI搭載の翻訳ソフトMTransを本学全事務部門に導入し、学内における通知について日英併記を徹底した。

【特に優れた取組】

2024年度の本格実施に向け、本事業において実渡航する学生で、学長が特に支援を必要と認める者に対して、大学の独自財源を原資とした奨学金を給付する制度の制定に向け、検討を行った。事業期間終了後の自走化を視野に入れた検討を進め、2024年度に「国際交流特別支援奨学金給付対象者の取扱いに関する申合せ」を制定することとなった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業を円滑に実施するための事業運営委員会を2023年10月に設置し、年度内に4回の委員会を開催した。委員会では、プログラムを担当する全教員が本事業実施における目標や求める成果についての認識を共有した。さらに、事業の進捗状況を共有することにより、個々のプログラム内容の改良に向け検討を重ねると共に、米国側大学との関係構築について情報交換を行った。また、本事業専用のwebサイトを作成し、事業概要や交流プログラムの内容、プログラム参加者の感想を掲載し、取組、成果を国内外に周知した。学生交流プログラムの魅力を発信することにより、今後、更なるプログラムの発展が見込まれる。

【特に優れた取組】

本事業専用webサイトを、英語版・日本語版の両方で作成した。また、2024年1月に予定していたが、能登半島地震のため中止となっていたキックオフイベントを2024年5月にオンラインで開催することを決定した。本学プログラム担当者による学生交流プログラムの概要説明や、米国各パートナー大学による大学紹介等について、国内外に発信する。

(2) 特記すべき成果

本事業で3プログラムを連携するUBの学長ら3名が、2024年4月に本学を訪問するための調整を行い、学生及び研究者交流の活性化に向けた両学長による協議及びUB学長によるFD講演会や、本学が強みを有する分野での若手研究者交流について、UBの教員6名と本学副学長を含む教員7名のオンライン打ち合わせを企画・立案した。UBが所在するニューヨーク州バッファロー市は1962年から金沢市と姉妹都市として交流が続いており、このような背景も活用し、地域と大学が一体となった交流を加速させていく。

2. 交流学生数の実績等【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	18	23	661	87	662	88	664	90	665	91	2670	379
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	10	640	70	640	70	640	70	640	70	2560	290
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	18	13	21	17	22	18	24	20	25	21	110	89
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	18	23	661	87	662	88	664	90	665	91	2670	379
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	10	640	70	640	70	640	70	640	70	2560	290
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	18	13	21	17	22	18	24	20	25	21	110	89
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	0	0										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	3	7										
達成目標に対する実績の割合	17%	30%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			3	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド	A/B(学部生または大学院生)	3	7								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

「学校教育協働体験プログラム」では、異なる国の教育環境を知ることで自国の教育を客体化し、自国の教育の欠点を克服しつつ、その美点をより発展させる方法を考察することを目的とし、3名の学部学生をコロラド大学スプリングス校（UCCS）へ派遣した。渡航前COILでは、双方の大学から教員が1名ずつ参加し、プログラムについての議論を行った。約10日間の渡航中は、UCCS教員の仲介によって、保育園、小学校、中学校を訪問し、それぞれの学校において校長（園長）による校内案内と教員との質疑応答があり、参加学生は教室環境や教授法の違いを体験的に学んだ。また、教育現場の背景にある考え方を学ぶために、派遣学生はUCCS教員と現代アメリカの教育問題（日本とアメリカの制度についての演習、教員不足への州政府の対応とその背景について等）についての演習授業を受け、また、日本語の通常授業にも参加し、日本語を専攻するUCCSの学生と交流した。帰国後COILでは、本プログラムでの学修をまとめたレポートに基づいた討論会を行い、学修成果を振り返ると共に、日本の教育に必要な変化などを検討した。

【特に優れた取組】渡航前COILでは、金沢大学及びパートナー大学の学生と各大学の教員1名ずつが参加し、自己紹介、興味、プログラムへの期待を話し合った。初対面の堅苦しさを払拭し、お互いについての予備知識を持てるように、学生には事前にエントリーシートを作成することとした。オンランミーティングにおいても、プレゼンテーション資料を画面で共有することで、できるだけ質問が出やすい環境を作り、活発な議論が展開された。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

「地域開発計画プログラム」では、ニューヨーク州大学バッファロー校(UB)の都市計画学部から3名の学部学生及び4名の大学院博士前期課程学生を約1週間受け入れた。参加者は、金沢市の伝統建築や市街地のフィールドトリップ及びグループワークを通して、多角的な視野を涵養した。参加者からは、都市構造だけではなく都市に住む人口への影響や、日米の都市計画等について考える機会となり、期待を超える内容だったとの感想を得ている。

【特に優れた取組】金沢市の協力を得て、市役所都市計画課の職員と面談し、金沢市の歴史的発展、現在の都市パターン及び将来の計画についての説明を受けた後、活発なディスカッションを行った。参加者からは、日本の都市計画についての理解が深まったとの感想と次回以降のプログラムにも継続して取り入れるよう要望があった。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	0	5	4	5	4	5	4	5	4	25	16
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	2	0	2	0	2	0	2	0	8
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	0	5	2	5	2	5	2	5	2	25	8

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	0	5	4	5	4	5	4	5	4	25	16
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	2	0	2	0	2	0	2	0	8
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	0	5	2	5	2	5	2	5	2	25	8

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	0	0								
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	3	0								
達成目標に対する実績の割合	60%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		3	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0								
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

「学校教育協働体験プログラム」では、約10日間の渡航中に、UCCS教員の仲介によって、保育園、小学校、中学校を訪問し、それぞれの学校において校長（園長）による校内案内と教員との質疑応答があり、参加学生は教室環境や教授法の違いを体験的に学んだ。また、日本語の通常授業にも参加し、日本語を専攻するUCCSの学生と交流した。帰国後COILでは、本プログラムでの学修をまとめたレポートに基づいた討論会を行い、学修成果を振り返ると共に、日本の教育に必要な変化などを検討した。参加者から、本プログラムは全体的に充実した内容で、将来のビジョンが明確になったと、高い満足度を得ている。

【特に優れた取組】保育園、小学校、中学校等パブリックスクールの見学は、学生が教室環境の違いや地域コミュニティとの関わり、授業の導入やテーマに関心を向けさせる実践的なアイディアについて体験的に学習した。実際の学校現場で、教壇に立つ立場を実感しながら見学することで、米国と日本の教育の違いを自らが発見することによって、自身のビジョンが明確になったとの感想も得ている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度においては計画しておらず、実施していないが、2023年度中に実施した受入のプログラムで金沢市役所の都市計画課を訪問し、参加者から「非常に参考となった」、「理解が深まった」等の感想を得ていることもあり、次年度以降は、自治体や「北陸未来共創フォーラム」の協力を得ながら、インターンシップを実施する予定である。

【特に優れた取組】

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
University of Nebraska, Lincoln校 (UNL)	認定者数	B(大学院生)	0	10	11	11	11
	認定単位数	B(大学院生)	0	10	11	11	11
University of Louisiana, Lafayette校 (ULL)	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	2	3
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	20	30
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	10	11	13	14
年度別認定単位数合計			0	10	11	31	41

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
University of Nebraska, Lincoln校 (UNL)	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
University of Louisiana, Lafayette校 (ULL)	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	信州大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	地域STEAM教育に関する国際共修人材育成プログラム		
	【英文】	STEAM-Powered Capacity Development through Transnational Project-Based Learning for Community Challenges		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	米倉 真一	(所属・職名)	副学長（国際企画・戦略担当）
	(交替年月日)	令和5年9月29日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/tenkai/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

① - 1 交流プログラムの内容

米国協定校へ交換留学生を1名派遣するとともに、2名の学生を交換留学生として受入れた。留学生と対面型の国際共修を実施し本学の学生112名が参加した。対面型の国際共修については目標値を上回る学生が参加し、交流プログラム（国際共修）を実施することができた。

1 - 2月には、オクラホマ州立大学、カリフォルニア州立大学（サクラメント校・チコ校）と相互に教職員が訪問し、教育連携の推進や基盤となる学生交流の強化について具体的な意見交換を行った。試行的取組みとして、本学開講のオンライン国際共修プログラム（COIL）の授業の一部にサクラメント校の教員・学生6名がゲスト参加した。今後は多様な交流の実現に向けて、さらなる協議や必要となる手続を進めていく予定である。

単位取得型派遣プログラムの実施に向けては、大学で単位取得するためにはビザ取得を必須としている大学が多いこと、ビザ取得の要件を満たす渡航日数・双方大学の学年暦の調整、円安による研修費の高騰など、課題の調整に難航した。日米の時差が大きい中でのCOIL授業の構築は課題であるが、非同期型と同期型の組み合わせにより、英語初級レベルから上級レベルに対応する国際共修の構築を試行している。

【特に優れた取組】

共通教育科目教養系の既存授業科目に地域課題解決などの本プログラムの狙いとしている要素を加え、対面型の地域課題解決国際共修科目として実施した。米国交換留学生参加による国際共修授業は、多岐にわたる学部が参加し、文理の枠にとらわれることなく意味ある交流が開始できた。また、本プログラムの協業期間中は定期交換留学学生数について双方で柔軟に対応していくことを取り決めた。

① - 2 学生主体の国際交流プログラム

米国大学の日本や日本文化に興味を持つ学生サークルと、本学で国際交流を主目的とするサークルや外国語サロン等による交流活動の主要学生メンバーと意見交換を行い、学生サークル同士の交流実現に向けての可能性が確認できた。具体的には、カリフォルニア州立大学チコ校の学生主体で運営されるJapan Conversation Hourと本学の国際交流学生サークルHANASに所属するメンバーとのオンライン交流、カリフォルニア州立大学サクラメント校の日本語教育に関する授業に、学生が主体となり運営している英語交流グループの「English Salon」が参画することとなり、企画実施について調整が始まった。

【特に優れた取組】

学生が主体的な国際交流に取組む機会を作るため、米国大学の日本に興味のあるサークルと本学の国際交流学生サークル所属メンバーとのオンライン交流の調整が開始された。授業の枠にとられないコミュニケーションや異文化協働の頻度を増やし、COIL授業・海外渡航に興味を持つ学生の新たな獲得につなげた。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

国際共修授業の実施にあたり、信州の環境や文化、地域資源や産業、防災などに関するテーマを取り入れることを決定し、動画コンテンツ17本を作成した。地域課題解決型国際共修授業の基礎的・総合的な知識を獲得するための自主学習教材や、授業教材として活用していく予定である。また、本学学生の英語力向上のため、4技能の学習方法の解説動画やテキスト学習、オンラインでの添削付き4技能学習およびTOEFL iBTスコア模擬テストまでを含めた、自立型学習講座を開発し試行実施した。

【特に優れた取組】

英語力向上のため、グローバル化推進センターと全学教育センター教員の担当教員を定め、民間企業とともに議論を深めたことにより、4技能の学習方法の解説動画やテキスト学習、オンラインでの添削付き4技能学習およびTOEFL iBTスコア模擬テストまで含めた自立型学習講座をトータルパッケージとして開発することができた。同教材を用いた短期集中プログラムの試行実施を通じて、英語教材の整備にむけて前進することができた。

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

国際共修授業や留学派遣・受入れの拡充に向けた新たな協議を開始するため、全学部に対して協定校への派遣教職員を募集し、旅費等の支援を行った。その中で、本学農学部とカリフォルニア州立大学チコ校が2024年度に単位取得を伴う短期派遣プログラムを実施する運びとなった。教育交流のニーズやシーズの確認だけでなく具体的な教育交流の実施に向けて動き始めた。

【特に優れた取組】

既存の交換留学プログラムに加え、長期休暇中に本学学生が渡米し、相手先大学において単位を取得する単位取得型短期派遣プログラムを新たに留学のスタイルとして企画することができた。

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

米国からの留学生の日本入国までの支援をスムーズに行うために、COEサポートシステムを作成した。入国後のガイダンスでは、地元警察署の協力を得て生活安全指導・サイバーセキュリティーガイダンスを実施した。また、授業の内容を英語でまとめた授業概要を299科目分作成し、留学生向けの授業履修に関する情報の充実を図った。学生派遣の観点からは、海外渡航学生に対する危機管理オリエンテーションの実施に加え、海外滞在中の事件・事故に対して24時間対応する危機管理サービスの充実を図った。

【特に優れた取組】

共通教育科目教養系の授業299科目分の内容を英語でまとめた授業概要集を作成し、留学生向けの授業履修に関する情報の充実を図った。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業は全学体制で教育の国際化に取り組むため、2名の副学長（国際企画・戦略担当、教育企画・戦略担当）を含めた実施体制とし、グローバル化推進センターが中心となり、高等教育研究センター・教学IR室・全学教育センター教員が運営に当たる。事務組織においては、国際部国際企画課・学務部学務課の共同支援チームを組織し、支援体制を整えた。本事業の活動を通して全学規模でかつ継続性のある波及効果が期待でき、事務組織を含めた大学全体のグローバル化の促進が期待できる。また、プログラムの成果を発信するため本プログラムのwebサイトを作成した。共通教育科目の授業概要集についても本webサイトに掲載し公開した。

【特に優れた取組】

教育のグローバル化のさらなる推進のため、2名の副学長と国際系・学務系の教職員が運営にかかわる組織を形成しプログラムの実施を行う体制を整えた。

（２）特記すべき成果

準備期間が非常に短い中での実施であったが、オンラインでの国際共修に関しては目標値以上の交流が実施できた。本プログラムの協業期間中は定期交換留学学生数について双方で柔軟に対応していくことを取り決めたことで、2024年度は交換留学派遣枠数を超えた応募があり、柔軟に対応し米国大学からの学生の受入を行っていく。また、英語力向上プログラムを民間企業と共同開発し試行実施したことを通じて、英語教材の整備にむけて前進することができた。

2. 交流学生数の実績等【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	5	405	50	405	50	405	50	405	50	1670	205
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	5	2	0	2	0	2	0	2	0	8	5
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	50	0	400	43	400	43	400	43	400	43	1650	172
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	3	7	3	7	3	7	3	7	12	28

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	5	405	50	405	50	405	50	405	50	1670	205
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	5	2	0	2	0	2	0	2	0	8	5
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	50	0	400	43	400	43	400	43	400	43	1650	172
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	3	7	3	7	3	7	3	7	12	28

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	113	2	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	1	2								
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	112	0								
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	226%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			113	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	2								
	オンライン		112	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本学の学生1名が単位取得を含む交換留学プログラムに参加し、カリフォルニア州立大学サクラメント校に1学期間留学した。また、カリフォルニア州立大学サクラメント校およびチコ校から、2学期間の交換留学生を受け入れ、それらの学生を含めた外国人留学生と信州大学学生との国際共修授業を実施し、112名の信州大学学生が履修し共修学習を経験した。上記以外にも本学開講のオンライン国際共修プログラム（COIL）の授業の一部にサクラメント校の教員・学生6名がゲスト参加した。今後は多様な交流の実現に向けて、さらなる協議や必要となる手続を進めていく予定である。

【特に優れた取組】

共修プログラムでは、共通教育科目の中で開講したことにより文系理系の学生が互いの観点から意見を述べ、総合知、課題解決力、国際力を備えた地域活性化人材の育成を目指す取り組みとして実施できた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

カリフォルニア州立大学サクラメント校から1名、チコ校から1名、2学期間の交換留学生を受け入れ、国際共修授業や日本語・日本文化を学ぶ授業を履修し単位を取得した。

【特に優れた取組】

本プログラムの協業期間中は定期交換留学学生数について双方で柔軟に対応していくことを取り決めた。信州大学で学び帰国した交換留学生が、自身の大学での日本語の授業等において2024年度信州大学派遣に向けたプロモーションを行ってくれた。2024年度は交換留学派遣枠数を超えた応募があり、柔軟に対応し受入を行っていく。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	20	10	20	10	40	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	20	7	20	7	40	14
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	6
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	20	10	20	10	40	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	20	7	20	7	40	14
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	6
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	1	0								
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	0	0								
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

実渡航派遣インターンシップとして、医学部が実施する選択臨床実習派遣プログラムにおいて、UC Davisに3か月間1名を派遣し、病院実習を実践することができた。

【特に優れた取組】

インターンシップにおいては2026年度からを予定していたが、医学部が実施する海外臨床実習派遣プログラムにおいて、UC Davis校へのインターンシップ派遣への合意が得られ前倒して実施することができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

交換留学受入時にインターンシップに参加できるように、県内でインターンシップ受け入れ先の調整を開始した。

【特に優れた取組】

地域課題のテーマに合致した受け入れ先について地元の民間企業・行政などについて前向きに調整することができた。

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
該当なし		
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	5	0	5	0	5	0	5	0

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：信州大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
六大学のうちいずれか	認定者数	A(学部生)	0	5	5	5	5
	認定単位数	A(学部生)	0	10	10	10	10
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	5	5	5	5
年度別認定単位数合計			0	10	10	10	10

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：信州大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
カリフォルニア州立大 学サクラメント校	認定者数	A(学部生)	1				
	認定単位数	A(学部生)	12				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			12	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	名古屋大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	微分型成長を重視した分野横断型日米協創人材育成		
	【英文】	Japan-US Interdisciplinary Program Emphasizing Students' Academic Growth		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	小橋 眞	(所属・職名) 工学研究科・研究科長	
	(交替年月日)	2024/4/1		
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://juipag.engg.nagoya-u.ac.jp/index.html>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で２ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
① - 1 交流プログラムの内容 １）ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校学生とともに愛知県の地域課題に取り組む教育プログラムの企画に向けて、2023年度後半に愛知県美浜町を訪問し、現地を視察するとともに、自治体関係者と協議を行った。加えて、ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校教員と交渉した結果、同大学生を招へいし、当該地域のインバウンド観光促進に向けて共同で課題に取り組み、政策提言に繋げるサービスラーニング授業を2024年度に実施することで合意した。さらに、同大との今後の学生交流の拡大に向けて、関係者のネットワークを構築することができた。 ２）工学部・工学研究科では、2024年2-3月にワシントン大学が提供する英語と米国文化の研修プログラムSTEPを活用すると共に、STEP以外の時間を大学内外の研究室や企業、文化施設を視察する国際共修システムを3週間に渡り実渡航で実施し、学部生3名と大学院生1名が参加した。終了後に参加者による報告会を開催し、準備から成果報告までの取組みを事例として他部局と情報共有した。 ３）２）の取組みを参考に、2024年度開催のモノづくり・コトづくりの異分野協働作業プロジェクト(Summer Intensive Learning Program(SILP))に向け準備を実施した。2024年6-7月に米国から名古屋大学へ実渡航する参加者の募集と選考が進み、当該時期にノースカロライナ州立大学の学部生6名を受け入れる予定である。 ４）工学部・工学研究科が実施する自動車工学のサマープログラムであるNUSIPでは、一部対象学生を選んで成果発表などの場面に競技と反省の要素の充実を図り、微分型成長促進のための機能強化を2024年度から本格的に行う予定である。 ５）医学部・医学系研究科では、臨床実習海外派遣留学について、対象となる大学への派遣を希望する学生を募集し、優れた英語力ならびに学業成績を持ち、また高い志を持って現地で研修できる学生1名を選抜し、デューク大学に派遣した。現地では先方大学の研修プログラムに参加し優秀な成績とともに無事に終えることができた。先方大学への留学について、研究科では臨床実習Ⅱの単位認定を行った。また、2024年度は派遣及び7月に実受入を行う予定で準備を進めており、日本の地域医療と先端医療をテーマに、米国学生と日本人学生が本学で共に学ぶ予定である。また、教員3名が本学を訪問し交流を行う予定である。 ６）農学部・生命農学研究科では、学部生と大学院生の交流に重要となるノースカロライナ州立大学との研究室の研究マッチングを中心にすすめた。研究マッチング情報を整理するとともに、その情報を先方と共有することで、研究や人材交流の相互理解を進めた。これにより2024年度にはノースカロライナ州立大学からの研究学生の受入れが可能となった。また、ノースカロライナ州立大学の森林や木材資源系の部局長との打合せを行うとともに、本学の研究と紹介のセミナー等を実施し、米国学生との理解を深めた研究マッチングができるように情報を整理して活用している。
【特に優れた取組】 １）将来の留学を見据え、アメリカでの学生生活を様々な面から体験する短期留学である留学アカデミーでは、短期留学は長期留学への「お試し留学」として位置付け、授業聴講を通して現地学生がどのように講義を受けているか・取り組んでいるのか理解し、長期留学を想像できるよう工夫している。 ２）上記２）は、工学研究科における初めてのオリジナル企画だったにもかかわらず応募学生は定員の３倍以上にも上り、書類審査・面接審査を通じてきわめて意欲が高い学生を派遣できた。今回の参加学生が主体となって、今後計画されている学生シンポジウムなどを開催し、本事業の推進力となってもらうことを期待している。
① - 2 学生主体の国際交流プログラム １）上記（１）①－１の２）において、名古屋大学からの派遣学生がワシントン大学の学生フォーミュラ(FSAE)チームを訪問、チーム間でオンライン会議を企画・開催し、交流を深めた。 ２）生命農学研究科では、国内において、学生主体のプログラムを行えるように準備を進めた。とくに2023年度の渡航者の横断的なネットワークを構築した。また、渡航者においては、渡航先の研究室でセミナーなどを実施できるように個別のプレゼンテーションの指導などを行った。
【特に優れた取組】 １）ワシントン大学と名古屋大学のFSAEチームのオンライン会議では、技術的および非技術的な内容について熱心で深く幅広い議論が見られ、英語のコミュニケーションに対して初めは不安を感じていた名古屋大学の学生たちにとって、共通の関心を持つ技術的なトピックを国際交流の議題にすることが、言語の壁を取り除く力があり、語学のモチベーションに繋がることが示された。また、交流イベント後、名古屋大学のFSAEチームは、新しいチーム目標（活動の単位認定の推進、文系学生のチーム参加の働きかけ、産業界とのつながり強化、自動運転カテゴリーへの挑戦など）を設定し、チームの活動改善を進めている。 ２）生命農学研究科では、渡航学生が現地でセミナーや研究交流を実施するなど、自主的な研究交流が展開されている。これにより2024年にもさらなる交流の実施が広がった。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 1）2024年2月7日から3月12日まで、名古屋大学の学生と東ミシガン大学の学生が、日米文化を比較し、異文化間の対人場面での共感性について学習することを目的として、オンラインでグループワークを行う共同学習プロジェクトを実施した。 2）サイエンスキャリアに関するCOIL（国際オンライン協働学習型講義）では本学10名、ノースカロライナ州立大学10名、生命農学に関するCOILでは本学17名、ノースカロライナ州立大学20名の学生が参加した。すべて単位取得学生である。参加学生は、アクティビティ、課題、チーム課題、プレゼンテーション、グループディスカッションなど、様々なアクティビティに真剣に積極的に参加した。 3）環境学研究科の講義科目「気候変動と社会基盤」「エネルギー環境システム論」をそれぞれノースカロライナ州立大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校とのCOILプログラムとして再編している。日米両国の気候変動やエネルギー問題に対する検討の着眼点や対応策について互いに紹介・議論する内容になる予定である。 4）ノースカロライナ州立大学のオンラインプログラムに医学系研究科の32名の学生が参加した。自身の研究を伝える事を目的としたプログラムであり、講義やグループワークなどを行って理解を深めた。また、テーマを「AIと高齢化社会の未来を考える」とした本学主催のオンラインプログラムを2024年3月に開催した。レクチャーやグループ討議を含む10日間のプログラムを実施し、多数の本学学生が参加し、米国からも30名を超える多数の学生が参加した。2024年度はスケジュールの一部変更など、多くの学生がもっと参加しやすく、学びやすい環境を作る事を目指している。
【特に優れた取組】 1）教育発達科学が中心となって実施するCOILプログラムは、日米文化の比較を行うグループディスカッションと異文化間の対人場面での共感性に関するロールプレイの発表の2つの構成で、すべてのプログラムは英語で実施された。また、参加学生は、プログラムの前後、プログラム中にセッションの予習や振り返りを兼ねた課題を提出した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 1）ノースカロライナ大学Visiting Scholar制度について、協定内容を新たに見直し、締結を行った。これまで本学から先方大学に学生を派遣するのみであったが、これにより双方向で学生や研究者が相互に派遣できるようになり、両大学間で交流することが可能となった。2023年度は募集できておらず、2024年度からの開始を予定している。2024年度に2名の学生が先方大学を訪問予定である。 2）2023年11月に工学部の教職員3名がワシントン大学工学部副研究科長、教授、教務課長補佐を訪問し、学生交流の活性化を依頼した。結果として初めて交換留学生の受入が承諾され、応募が可能になった。 3）2024年1月にノースカロライナ州立大学工学部教授を名古屋大学工学研究科の視察訪問の目的で招へいした。 4）上記①-1の3）の広報と米国大学におけるデザイン教育の視察の目的で3月に3名の教職員がノースカロライナ州立大学へ出張した。 5）2024年度に農学部・生命農学研究科部局独自のマッチングファンドを用意し、研究交流を活性化させることをすすめるために、2023年度から募集を開始した。これらは、本事業とは別の研究科独自の予算を活用することですすめている。専門性の向上と広い視野の確保といった高度人材育成といった、質の保証を確保している。 6）環境学研究科のCOILプログラムと連動させ、特に優秀な学生について大学間相互派遣を行うことをノースカロライナ州立大学と合意している。具体的な交流内容については現在調整中。
【特に優れた取組】 1）4）では、工学部・工学研究科の体験型授業担当者とノースカロライナ州立大学のシニアデザインプロジェクト担当者が面会し、双方の体験型教育の状況について報告するとともに、意見交換を行った。その結果、2024年夏以降、名古屋大学の一部の授業テーマをノースカロライナ州立大学で採用する検討が進んでいる。一方、先方教員の提案を踏まえ名古屋大学側でも一部テーマの更新に取り組んでいる。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 1）留学アカデミーでは事前授業を実施し、現地の最新情報、現地での生活、現地での生活の心構えなどについて講義を実施した。また、安全危機管理セミナーも開催し、必要な保険への加入なども行った。 2）医学部・医学系研究科では、オンラインプログラム実施において、オンラインツールやバーチャルリアリティ技術を使用し、学生達が交流できる環境を構築した。また、最新の技術を学ぶため、Googleやバーチャルリアリティ技術を得意とする企業の専門家を招いて講義を行ったり、高齢化社会をテーマに将来の新たなビジネスアイデアを創出するための討議を行うなど日米で共修を行った。 3）上記①-1の2）の派遣において、事前に大学が実施する「安全・危機管理リエンション」の他に、工学部独自のリエンションを実施した。また来日前に情報提供の依頼があった大学にはリクエストに応えるため、オンラインで事前説明会を行なった。 4）農学部・生命農学研究科では、研究内容についての相互理解を深めるようにSpeed Datingとしての研究情報を整備するとともに、それらを共有し、日米双方で確認することができきるように整えた。これにより、学生留学のマッチングや、研究を発展させるための派遣や受け入れ体制を整備した。
【特に優れた取組】 1）できるだけ多くの情報を写真を入れて詳細に尚且つ丁寧に提供することによって、留学する本人だけではなく、送り出す家族にとっても、予備知識を構築することができ、不安の軽減に繋がったと思われる。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 1) 全学的に世界展開力に関する日本語と英語のウェブサイトを作成し、2024年3月に公開した。ウェブサイトには「事業概要」、「プログラム紹介」、「プログラム参加者募集」、「成果物」、及び「イベント情報」を含めて構成し、プロジェクトの進捗状況に応じて、その成果を随時ウェブで発信していく予定である。 2) 日本語版と英語版のパンフレット（各4ページ）を作成し、それぞれ100部と200部を印刷した。 3) 本事業参画教員のSNS（X/Twitter）でも随時取り組みの状況を紹介し、高い視聴回数を得ている。 4) 農学部・生命農学研究科では、部局独自のホームページを充実させ、本事業に加えて、関連する国際交流事業を網羅的に確認できる仕組みを整えることで、学生が海外での教育研究活動を充実させるとともに、学生ニーズに対応した国際展開が可能となるように整備した。
【特に優れた取組】 1) 上記1) 及び2) では、2023年度中に日本語・英語の両言語に対応して完成させ、公開・配布を開始することにより早い時期から本事業の取り組みを公開できた。3) のSNS（X/Twitter）を用いた情報公開では、名古屋大学公式SNS（X/Twitter）でもリポストされることで短期間に視聴回数を伸ばすことに成功している。
（2）特記すべき成果 1) COILプログラムは単にオンライン上で両大学の学生が共同学習するだけでなく、中長期的には部局間協定を締結し、実渡航を伴う学生交流を行う。また、本プログラムは両大学の共同研究を兼ねており、単発的ではなく、戦略的に複数年での共同研究プログラムという位置づけを担っている点が特筆すべき成果である。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	478	289	662	429	898	628	963	786	994	813	3995	2945
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	90	49	105	103	121	105	141	115	142	115	599	487
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	383	236	533	315	735	500	778	630	810	655	3239	2336
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	4	24	11	42	23	44	41	42	43	157	122
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	478	289	662	429	898	628	963	786	994	813	3995	2945
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	90	49	105	103	121	105	141	115	142	115	599	487
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	383	236	533	315	735	500	778	630	810	655	3239	2336
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	4	24	11	42	23	44	41	42	43	157	122
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	158	126	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	41	45										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	117	81										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	33%	44%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	B(大学院生)	1									
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			28	40	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	B(大学院生)	1									
	オンライン	A/B(学部生または大学院生)	27	40								
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			4	39	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A/B(学部生または大学院生)	4	39								
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			108	47	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A/B(学部生または大学院生)	35	6								
	オンライン	A/B(学部生または大学院生)	73	41								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン	A/B(学部生または大学院生)	17									
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

- 1) 臨床実習海外派遣留について、対象となる大学への派遣を希望する学生を募集し、優れた英語力ならびに学業成績を持ち、また高い志を持って現地での研修にできる学生1名を選抜し、デューク大学に派遣した。現地では先方大学の研修プログラムに参加し、優秀な成績とともに無事に終えることができた。先方大学への留学について、本学では臨床実習Ⅱの単位認定を行った。2024年度も派遣を行う予定である。
- 2) ノースカロライナ大学Visiting Scholar制度について、協定内容を新たに見直し、締結を行った。これまで本学から先方大学に学生を派遣するのみであったが、これにより双方向で学生や研究者が相互に派遣できるようになり、両大学間で交流することが可能となった。2023年度は募集できておらず、2024年度からの開始を予定している。2024年度に2名の学生が先方大学を訪問予定である。
- 3) ノースカロライナ大学州立大学のオンラインプログラムに32名の学生が参加した。自身の研究を伝える事を目的としたプログラムであり、講義やグループワークなどを行って理解を深めた。また、本学主催のオンラインプログラムを2024年3月に開催した。テーマを「AIと高齢化社会の 未来を考える」とし、レクチャーやグループ討議を含む10日間のプログラムを実施し、多数の本学学生が参加した。同プログラムではオンラインツールやバーチャルリアリティ技術を使用し、学生達が交流できる環境を構築した。また、最新の技術を学ぶため、Googleやバーチャルリアリティ技術を得意とする企業の専門科を招いて講義を行ったり、高齢化社会をテーマに将来の新たなビジネスアイデアを創出するための討議を行うなど日米で共修を行った。2024年度はスケジュールの一部変更など、多くの学生がもっと参加しやすく、学びやすい環境を作る事を目指している。
- 2) 農学部・生命農学研究科では、COIL programを2科目で実施し、オンラインにおける交流実績を確保できた。

【特に優れた取組】

- 1) COIL programを2科目で実施し、オンラインにおける交流実績を確保できた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

- 1) 2024年3月に主催したオンラインプログラムでは「AIと高齢化社会の未来を考える」をテーマに日米の学生が共に学ぶプログラムを実施した。最新の技術をGoogleや企業の専門科を招いて学び、レクチャーやグループ討議を含む10日間実施した。米国からも30名を超える多数の学生が参加した。日米の学生達は、オンラインツールやバーチャルリアリティ技術を使用して交流した。また、高齢化社会をテーマに将来の新たなビジネスアイデアを創出するなど共同作業を行った。2024年度も同様に実施予定であるが、プラットフォームの変更などを予定している。また、2024年度は、7月に実受入を行う予定で準備を進めている。日本の地域医療と先端医療をテーマに、米国学生と日本人学生が本学で共に学ぶ予定である。また、教員3名が本学を訪問予定であり交流を行う予定である。
- 2) COIL programを2科目で実施し、オンラインにおける交流実績を確保できた。

【特に優れた取組】

- 2) COIL programを2科目で実施し、オンラインにおける交流実績を確保できた。

(2) インターンシップの実施状況について												
①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	1	3	1	7	1	14	1	14	5	38
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	5	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	3	0	7	0	14	0	14	0	38
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	1	3	1	7	1	14	1	14	5	38
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	5	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	3	0	7	0	14	0	14	0	38
②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	3											
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）												
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）												
達成目標に対する実績の割合	300%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調査分

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	B(大学院生)	1									
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A/B(学部生または大学院生)	2									
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

国際環境人材育成プログラム（NUGELP）での単位化された研究インターンシップとして、ノースカロライナ州立大学に1名、2週間の派遣を行った。期間中は専門に関連した講義を聴講するとともに、Charlotte市における公共交通指向型開発(TOD)の導入経緯や現状の課題を調べ、今後の解決方策に関する検討を行った。このインターンシップは学生の研究テーマと受入大学のテーマのマッチングに基づき実施され、参加学生次第で内容が変わるものである。今回は両大学の教員個人のネットワークでマッチングを行ったが、次年度以降、専攻単位でマッチングを行っていく予定である。

教育学部・教育発達科学研究科では、2023年度は2名の学生をオレゴン大学近郊の小学校に現地の小学校教員のアシスタントとしてインターンシップを実施した。プログラムの内容は、月曜日～金曜日午前中までの現地の小学校での教師のアシスタントと金曜日午後の週1回の授業参加（米国オレゴン州の教育・教授法の講義や1週間の振り返り等）である。インターンシップ生はこども、学校関係者、ホストファミリーとすべて英語でやり取りを行い、現地の小学校教員のサポートをしつつ、多様な文化的背景を有する子どもに対する教授法や授業運営を深く学ことができた。2024年度も既に1名派遣予定であり、毎年、人数を増やしていくことができればと考えている。2024年度もしくは2025年度に教育発達科学研究科の教員が先方大学を訪問予定であり、プログラムの更なるブラッシュアップを期待することができる。

【特に優れた取組】

特になし

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度は新STEAM教育プログラム（ノースカロライナ州立大学からの大学院生中期受入）は実施できなかったが、本事業採択前から実施しているJUACEPにおいて2023年度はモントリオール工科大学の大学院生 1 名の中期受入を行った。当該大学院生には、現在新STEAM教育プログラムのテーマの一つとしている飛行ロボット研修テーマに取り組んでもらい、研修やその指導に必要な経験を得ることができた。

【特に優れた取組】

特になし

（3） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

※該当なし

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ノースカロライナ州立大学	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	0	12	12	12
ミシガン大学	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	0	12	12	12
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)	0	0	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	0	12	12	12
年度別認定者数合計			0	0	6	6	6
年度別認定単位数合計			0	0	36	36	36

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2									

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
デューク大学	認定者数	A(学部生)	1				
	認定単位数	A(学部生)	4				
ノースカロライナ州立大学	認定者数	B(大学院生)	1				
	認定単位数	B(大学院生)	2				
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			2	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			6	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	神戸大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	「食」を通して持続可能な世界を実現する グローバル人材育成のための異分野共修型国際プログラム		
	【英文】	International Interdisciplinary Collaboration Program for Global Human Resource Development to solve global issues through "Food- related Science, Business and Culture"		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	玉置 久	(所属・職名)	理事・副学長
	(交替年月日)	令和6年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

www.ans.kobe-u.ac.jp/sekaten/

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
① - 1 交流プログラムの内容 2023年度は、採択後半年で以下の交流プログラムを実施した。 1. UPLBでの英語研修（申請書プログラム#④） 現地に3週間滞在し、集中トレーニングによりアグロサイエンスにおいて「武器」として使える実践的な英語能力（プレゼンテーション・ディベート能力）を身につけるとともに、さまざまな農場・農業関係研究所を訪問して、アジア農業の中心となっているイネに関する知識を深め、熱帯農業の実情、とくに植物防疫・農産物の安全性に関する現状と問題点を学修した。本年度はネブラスカ大学リンカーン校（UNL）の教員1名と学生3名も本プログラムの一部に参加した。 2. シアトルインターンシップ（申請書プログラム#⑥） ワシントン大学研究室附属の標本庫内で植物の標本作成にかかる約1か月のインターンシップを行い、リードカレッジの林冠生態学演習、ワシントン大学内樹木園での地衣類ワークショップに参加し、海外の研究者たちと協働する中で、異文化に対する理解を深めるとともに、植物標本における知見を広げ、再びワシントン大学で標本分類にかかるインターンシップを行った。これにより、国際競争力のある若手研究者を涵養するとともに、地球規模のSDGsに資する人材を育成することができた。 3. UNLでの実地英語研修（事後研修）（申請書プログラム#④） 2023年9月に実施したUNLでの実地英語研修（20名が参加）の事後研修として、3月にUNLより学生を3名、教員3名を1週間招へいし、研修参加神戸大学生にUNL英語研修で得たことなどを英語で発表をさせた。また、食文化や日本文化を学ぶ研修旅行や交流会を実施した。
【特に優れた取組】 UNLの学生をUPLB英語研修に帯同させたことで、本プログラム参加学生の英語によるプレゼンテーション能力を大きく伸ばすことができただけでなく、米国への関心を持つ学生が昨年より増え、2024年度UNL実地英語研修の説明会及び、国際交流ボランティアの参加者が目に見えて増えた。
① - 2 学生主体の国際交流プログラム UNLでの実地英語研修（事後研修）において、2023年度9月に実際にUNLで英語研修を行った20名が、UNLからの学生5名（招へい以外2名含む）並びに教員3名を、日本の食文化を体験するために、自ら奈良、京都、姫路への日帰り研修旅行を企画立案し、実施した。
【特に優れた取組】 事後研修を行ったことにより、より両校学生間の交流が深まっただけでなく、英語への学習意欲や国際交流の重要性を再認識させることができた。さらに、UNL関係者とUNL英語研修経験者だけでなく、神戸大学正規の留学や、他の学生をも巻き込んだため、学内における国際交流意欲を深く涵養することができた。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 本年度は、2024年度からのオンラインでの講義「食の安心・安全」コース（申請書プログラム#⑧）に向けて、教材の作成をおこなった。また、メタバースを利用して「バーチャル神戸大学」を作成した。2024年8月より本格運用を開始する予定である。
【特に優れた取組】 メタバースを利用して作成した「バーチャル神戸大学」は学生に評判がよく、今後パートナー校の学生同士がこの場で交流できることを確信している。また、大学内でも予想外の波及効果がうまれ、このメタバースに日本語教育など大学の様々な機能をリンクさせる動きが出てきており、将来的発展が多いに期待できる。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 1, 実施した「UPLBでの英語研修」と「UNLでの実地英語研修（事後研修）」は共に、神戸大学大学院農学研究科の科目となっており、履修・成績判定などについては、神戸大学農学研究科の規則に従っている。 2, 2024年度に実施する「日本学サマースクール」（申請書プログラム#③）及び「産官学インターンシップ」（申請書プログラム#⑨）に向けて、UW,UNL,WU,UPLBで国際交流関係のトップ及び学長並びに学部長クラス教員との会談を行った。今後全体会議を行う予定である。
【特に優れた取組】 本年度行った各パートナー校への訪問により、当プロジェクトの目的・趣旨が十分に理解され、その話合いの中で複数の大学から単位化のオファーを頂いた。そのためには6週間の期間が必要なため「日本学サマースクール」及び「産官学インターンシップ」を一連の研修とすることとした。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 1, 本事業を実施するために、全学的な運営委員会と実務的な仕事を行うWGを発足させた。 2, これまでにULPBやUNL英語研修に参加した学生のリストを作成し、本事業実施の際にはボランティアとして交流活動に参加できる仕組みを構築した。 3, 2024年度より実施する中・長期交換留学（申請書プログラム#⑫）さらには将来的なダブルディグリーの実施に向けて、学内に教員によるWGを発足させた。今後、学生細則を詰めていく予定である。
【特に優れた取組】 中・長期交換留学（申請書プログラム#⑫）さらには将来的なダブルディグリーの実施にに向けて、学内に教員によるWGの発足だけでなく、本年度はUNLより研修者を招へいし、講演会や神戸大学の教員と面談を行うことにより、共同研究、即ち学生を共同で指導できるしくみ作りのために、マッチングを行った。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本事業のホームページを作成し、公開した。また、本事業にかかわる各大学だけでなく、兵庫県、神戸市、日本総領事館、各企業に本事業の目的・趣旨などを説明し、理解及び協力を得た。また本事業を通して、語学だけでなく、人が深くかかわることにより、よりその人を知りたい、その国を知りたい、もっと仲良くなりたいという、意識が強く芽生え、真の国際化が進んできている。
【特に優れた取組】 UPLBなどの訪問大学においても広く広報された（https://uplb.edu.ph/all-news/uplb-cas-lite-program-welcomes-25-kobe-university-students-to-english-plus-course/）。
（2）特記すべき成果 1、有機的なつながりの構築 上述のようにUPLB農学英语研修ではUNLの教員1名と学生3名も本プログラムの一部に参加させたことにより、神戸大学－UNLや神戸大学-UPLBというつながりだけでなく、UNL-UPLBとのつながりを構築することができた。また、学生の英語研修や、留学生の受け入れもそれぞれ単独で行ってきたが、ULPBにUNL学生を帯同させたり、UNLの事後研修に正規留学生やUPLB研修生を参加させたことにより、各取り組みが有機的につながった事で、今後さらなる学修効果が期待される。さらには、2024年度実施の「日本学サマースクール」や「産官学インターンシップ」の広報のため、各パートナー校を訪問し、説明したおかげで、各パートナー校同士に協働が生まれた。 2、国際的異文化共修意欲の高まり 神戸大学では様々な英語研修プログラムを用意し、国際力の涵養に努めてきた。しかし、実際のところ英語力の向上や、個人の海外志向への変化に留まっていた感は否めない。本事業を通して、語学だけでなく、人が深くかかわることにより、よりその人を知りたい、その国を知りたい、もっと仲良くなりたいという、意識が強く芽生えてきているように思う。この思いは、まさに文化や考え方の違いを認識した上で、様々な問題を解決していくという本事業の根幹にあるものであり、国際化とは単に英語が話せるというだけではないという、学生の意識改革を促せるものであることを物語っている。実際、この事業に参加した各校の学生は、今だにSNSを通じてつながっている。さらには、神戸大学に進学したいと言ってくれる学生も少なからずいた。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	82	66	967	169	1017	243	1029	305	1039	315	4134	1098
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	62	46	74	79	84	83	96	85	106	85	422	378
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	20	873	90	913	160	913	220	913	230	3612	720
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	20	0	20	0	20	0	20	0	20	0	100	0
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	82	66	967	169	1017	243	1029	305	1039	315	4134	1098
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	62	46	74	79	84	83	96	85	106	85	422	378
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	20	873	90	913	160	913	220	913	230	3612	720
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	20	0	20	0	20	0	20	0	20	0	100	0
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	57	46	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	57	46										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	0	0										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	70%	70%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

			学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
				派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】													
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航	A(学部生)	56	0									
	オンライン												
	ハイブリッド												
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航												
	オンライン												
	ハイブリッド		0										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航	A(学部生)		10									
	オンライン												
	ハイブリッド												
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航	A(学部生)		36									
	オンライン			0									
	ハイブリッド												
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航	B(大学院生)	0										
	オンライン												
	ハイブリッド												
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航												
	オンライン												
	ハイブリッド												

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本年度は派遣事業として以下の3つを行った。

1，UPLB農学英語研修では現地に3週間滞在し、集中トレーニングによりアグロサイエンスにおいて「武器」として使える実践的な英語能力（プレゼンテーション・ディベート能力）を身につけるとともに、さまざまな農場・農業関係研究所を訪問して、アジア農業の中心となっているイネに関する知識を深め、熱帯農業の実情、とくに植物防疫・農産物の安全性に関する現状と問題点を学修した。

2，食の共修プログラム、グローバルマスター&ドクター生を受け入れた。

3，2024年9月に実施したUNLでの実地英語研修の事後研修として、3月にUNLより学生を3名、教員3名を1週間招へいし、研修参加神戸大学生に英語でUNL英語研修で得たことなどを英語で発表をさせた。また、食文化や日本文化を学ぶ研修旅行や交流会を実施した。

【特に優れた取組】

1，本年度は、UNLの学生を帯同させたことにより、本プログラム参加学生の英語によるプレゼンテーション・ディベート能力を大きく伸ばすことができただけでなく、米国への関心を持つ学生が昨年より増え、2024年度に行うUNL実地英語研修の説明会に参加する学生や、国際交流ボランティアに参加する学生が目に見えて増えた。

2，これらの派遣プログラムにより語学力の向上はもちろんのこと、学生同士が深くかかわることにより、よりその人を知りたい、その国を知りたい、もっと仲良くなりたいという、意識が強く芽生え、真の国際化が進んできている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

1，UPLBでの英語研修にUNLからの学生3名と教員1名を帯同させた。さらに、現地ではUPLBの学生がファシリテーターとして、3週間学生と共修した。

2，2024年9月に実施したUPLBでの実地英語研修（20名）の事後研修として、3月にUPLBより学生を3名（招へい者以外に自主的参加学生3名）、教員3名を1週間招へいし、研修参加神戸大学生に英語でUPLB英語研修で得たことなどを英語で発表をさせた。また、食文化や日本文化を学ぶ研修旅行や交流会を実施した。

【特に優れた取組】

1，UNLでの実地英語研修（事後研修）において、学生自身が2023年度9月に実際にUNLで英語研修を行った20名が、UNLからの学生5名（招へい以外2名含む）並びに教員3名を、日本の食文化を体験するために、自ら奈良、京都、姫路への日帰り研修旅行を企画立案し、実施した。

2，また、UNLの学生及び教員をUPLBに帯同させたことにより、神戸大学だけでなく、パートナー校であるUPLBやフィリピンに興味を持たせることができた。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0	2	10	2	10	2	10	2	10	10	40
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2		2	10	2	10	2	10	2	10	10	40
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0	2	10	2	10	2	10	2	10	10	40
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	0	2	10	2	10	2	10	2	10	10	40
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	1	0								
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）										
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	50%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	B(大学院生)	1									
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

シアトルインターンシッププログラムでは、ワシントン大学研究室附属の標本庫内で植物の標本作成にかかる約1か月のインターンシップを行い、リードカレッジの林冠生態学演習、ワシントン大学内樹木園での地衣類ワークショップに参加し、海外の研究者たちと協働する中で、異文化に対する理解を深めるとともに、植物標本における知見を広げ、再びワシントン大学で標本分類にかかるインターンシップを行った。

【特に優れた取組】

シアトルインターンシップの経験により、当該学生は博士課程に進学し、さらに国際的研究を進めようとしている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度は該当なし

【特に優れた取組】

2023年度は該当なし

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）		
●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム		
開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			2	2	2	2	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ネブラスカ大学 リンカーン校	認定者数	B(大学院生)		2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)		4	4	4	4
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	2	2	2	2
年度別認定単位数合計			0	4	4	4	4

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	AI時代の未来を拓く日米グローバル人材育成プログラム		
	【英文】	Japan-U.S. Global Leadership Program in the Age of Artificial Intelligence		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長（グローバル化担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://aihrdusa.hiroshima-u.ac.jp/>
<https://aihrdusa.hiroshima-u.ac.jp/en>

1. 取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で２ページ以内，（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。	
（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望	
① - 1 交流プログラムの内容 デジタル人材教育のフロントランナーである米国3大学と連携し、国際通用性のある高いAI・情報・データリテラシーを身につけ、AIの活用について国際的な議論をリードできる人材を育成する。2023年度の取組として、2024年2月に本学学生12名とテキサス大学オースティン校の学生24名に対し、COIL型学習Virtual International Education(VIE)を試行的に実施した。日米の学生がオンライン上で生成AIを同時に使用しながら、医療分野におけるAI活用のメリット・デメリットについて、国際的な視点から双方向的な議論を行った。 また、同年2-3月にかけて米国2大学への短期派遣を実施した。具体的には、テキサス大学オースティン校（テーマ：生成AI・アントレプレナーシップ・データサイエンス）に18名、パデュー大学大学（テーマ：半導体）に7名、合計25名の本学の学生を派遣した。テーマにそった様々な講義・視察により、学生が多角的に学ぶことができたとともに、学生主体で受入大学の学生との交流を行った。	
【特に優れた取組】 従来生成AIは個人の環境で使うものだが、本事業で開発した「HiGPT」というAI翻訳機能を兼ね備えた生成AI教育支援ツールとZoomを活用することにより、日米の学生がCOIL型学習で生成AIを同じ画面をみながら同時に体験し議論することが可能となった。COIL型学習のシラバス、事前学習用のビデオ教材、および、学生の学習効果をはかる事前・事後アセスメント等を日米の教員が協力して作成した。	
① - 2 学生主体の国際交流プログラム 2024年2月に実施したCOIL型学習のグループワークやディスカッションにおいて、異なる背景を持つ日米の学生が様々な意見を出し合い、自分たちで意見を集約し、課題に協働で取り組み、主体的な国際交流の場となった。 また、同年2-3月のテキサス大学オースティン校及びパデュー大学での短期派遣プログラムにおいても、本学の学生と受入大学の学生が主体となって、与えられたテーマに基づきディスカッションを行うなど交流を行った。	
【特に優れた取組】 本事業で開発した「HiGPT」及びZoomを駆使したグループワークでは、言語の壁を感じることなく主体的な議論を行うことができたことから、更なる交流機会や長期派遣等に関心を持った学生を増やすことができた。	
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム COIL型学習Virtual International Education(VIE)用のビデオ教材や講義資料等を共有するプラットフォームとしてJV-Campusの活用について協力を海外連携大学に依頼し、合意を得た。今年度のVIEは試行的に実施したため、小規模であったこともあり、本格的な活用は2024年度以降を計画している。	
【特に優れた取組】 JV-Campusの活用について連携大学間で合意を得ることができ、今年度製作・活用した教材も蓄積し、2024年度以降にアップロードしていく予定である。	

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

2023年2月に本学教職員が短期派遣でテキサス大学とパデュー大学に学生を引率した際、各大学のシニアマネジメント及び交流事業を担当する教職員と今後のプログラムの進め方について協議した。また、2023年3月29日、米国3大学から副学長他が広島に一堂に会し、キックオフミーティングを開催した（対面2校、1校オンライン）。2023年度の進捗報告とともに、学生の受入方針やカリキュラム方針、単位互換等について協議及び課題を特定した。また同会議には、本事業で委嘱した外部評価委員も出席し、AI人材の育成や今後の事業の進め方について助言をいただいた。また、2024年度以降実施するプログラムにおいて、デジタルバッジを発行すべく、4月からの契約締結に向け準備を行った。

【特に優れた取組】

シニアマネジメントレベルと対面で会議を実施したことで、事業実施方法のコンセンサスを得ることができ、各プログラムの実施をスムーズに開始することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本年度は、日本人学生の派遣のための環境整備を行った。本学と海外連携大学の異なる学事暦の間でスムーズな学生交流を行うため、各大学間でプログラム実施の日程を調整した。学生の安全面への配慮として、海外渡航リスクに関する講義を開催し、学生に受講を義務付けた。また、本学のウェブサイトにて、シラバスの他、履修上の注意点、単位互換について等、情報を更新し、学内の各種案内の徹底を図った。

【特に優れた取組】

3月末に実施した対面のキックオフ会議において、学生の受入環境や必要経費等について視察及び具体的な協議に基づき概ね合意したことにより、翌年度からの学生の受入・派遣に向けた環境整備を行うことができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

専用ウェブサイトを立ち上げるとともに、本学で実施する他の展開力事業とともに発信できる合同ウェブサイトと本学の公式ホームページにリンクをはり、広く取り組みを周知する体制を整えた。今後プログラムの報告も随時アップデートしていく。また、米国連携大学との合同プログラム委員会及び外部評価委員会にも情報を共有している。

【特に優れた取組】

2024年1月27日に、一般市民の方々や本学の学生などを対象とした広島大学フェニックス国際センター MIRAI CREA(ミライクリエ)で開催された国際交流イベント「NORTH AMERICAN & LATIN AMERICAN SATURDAY」にブースを設置し、来日中であった連携大学のテキサス大学オースティン校の教員が対面で参加する形で、事業についての概要を発信した。一般市民を含む127名が参加し、本事業に興味を持つ本学学生にも広く周知を行った。

（２）特記すべき成果

プログラムの早い段階（2024年3月）で、本学と米国提携3大学（1大学はオンライン参加）及び、有識者からなる外部評価委員が広島に一同に会し、事業の意義や育成すべき人材について協議を行ったことで、プログラムの実施をスムーズに開始できた。また、独自で開発した教育支援ツール「HiGPT」を活用することで、本プログラムで目指した目的を達成することができた。また、デジタルバッジの早期の導入を目指し、2023年度内に準備を完了し、2024年度4月の契約締結及び4月開始のプログラムに間に合わせることもできた。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	30	879	249	879	249	879	249	879	249	3546	1026
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	30	840	210	840	210	840	210	840	210	3360	870
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	30	0	39	39	39	39	39	39	39	39	186	156
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	30	879	249	879	249	879	249	879	249	3546	1026
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	30	840	210	840	210	840	210	840	210	3360	870
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	30	0	39	39	39	39	39	39	39	39	186	156
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	25	24	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）												
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）		24										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	25											
達成目標に対する実績の割合	83%	80%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

③：【交流形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			25	24	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン	A(学部生)		24								
	ハイブリッド	A(学部生)	25									
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年2月に、テキサス大学オースティン校（テーマ：生成AI・アントレプレナーシップ・データサイエンス）に18名、パデュー大学大学（テーマ：半導体）に7名、合計25名の本学の学生を短期派遣した。テーマに沿った様々な講義・視察により、学生が多角的に学ぶことができた。また、受入大学の学生との交流を行った。

【特に優れた取組】

派遣先大学の学生が、Cultural Ambassadorsとして、本学の学生とともにサブグループを構成し、サブグループごとに国際交流の活動の内容を決め、日米の学生が主体的に国際交流を行った。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年2月20日、本学学生12名及びテキサス大学オースティン校の学生24名に対し、COIL型学習Virtual International Education(VIE)を試行的に実施した。日米の学生がオンライン上で生成AIを同時に使用しながら、医療分野におけるAI活用のメリット・デメリットについて、国際的な視点から双方向的な議論を行った。

【特に優れた取組】

従来生成AIは個人の環境で使うものだが、本事業で開発した「HiGPT」というAI翻訳機能を兼ね備えた生成AI教育支援ツールとZoomを活用することにより、日米の学生がCOIL型学習で生成AIを同じ画面をみながら同時に体験し議論することが可能となった。COIL型学習のシラバス、事前学習用のビデオ教材、および、学生の学習効果をはかる事前・事後アセスメント等を日米の教員が協力して作成した。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）			3	3	3	3	3	3	3	3	12	12

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）										
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）										
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

③：【参加形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

今年度はインターンシップの派遣なし

【特に優れた取組】
特になし

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

今年度はインターンシップの受入なし

【特に優れた取組】
特になし

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
テキサス大学 オースティン校	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
アリゾナ州立大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
パデュー大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
年度別認定者数合計			0	6	6	6	6
年度別認定単位数合計			0	48	48	48	48

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
テキサス大学 オースティン校	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
アリゾナ州立大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
パデュー大学	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○宮崎大学、南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	地域と世界を結ぶ「知」の循環：日・米・台・韓の地域からGXへ挑むグローバル人材育成事業		
	【英文】	Circulation of Knowledge Connecting the Region and the World : Japan-US-Taiwan-S.Korea Global Human Resource Development Program aiming to Tackle GX Challenges		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏 名)	新地 辰朗	(所属・職名)	理事・副学長（教育・学生担当）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/sekaten/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
① - 1 交流プログラムの内容 STEP1ではCOIL型教育（国際協働オンライン学習プログラム）について、「国際協力入門」、「SDGs時代の開発経済学入門」の2つの基礎教育科目（2024年度より教養教育科目に名称変更）で実施した。また、COIL型教育を実施する科目数を増やすために、COIL型教育を担当する宮崎大学の教員8名を新たに加えることができた。2024年度は、新たに加わった教員を中心にCOIL型教育の充実と実施する科目数の増加を検討する予定である。STEP2（派遣・受入）ではGX（グリーン・トランスフォーメーション）および英語、日本語の集中オンラインコースをペンシルベニア州立インディアナ大学（IUP）と宮崎大学が45時間ずつ実施した。
【特に優れた取組】 STEP1では実施の前後に学生自身の成長を確認できるルーブリック評価表を準備し、本事業で設定した①異文化理解力（背景の異なる相手への理解）、②多文化共生力（背景の異なる相手との協調）、③課題発見力（事象からの具体的課題の抽出）、④課題解決力（③の解決方法の提案）、⑤課題発信力（③④を伝えるコミュニケーション力）の5つの項目全てにおいて、学生が自己の成長を実感したという結果を得ることができた。
① - 2 学生主体の国際交流プログラム STEP1のCOIL型教育およびSTEP2の集中オンラインコースをそれぞれ修了した学生が、2024年度に実施するSTEP3（派遣・受入）で留学することとなり、計画した学修プログラムを修了した学生を輩出できる目途をつけることができた。STEP1およびSTEP 2へ主体的に参加する学生数の増加を図るために、今後、派遣側となる宮崎大学を含む国内連携大学および受入側となる海外相手大学と連携し、より質の高い魅力的なプログラムの展開を進める。
【特に優れた取組】 学生交流を促進するために、海外相手大学の学生と日本人学生との間で、協働して学習を行っている。具体的な取り組みとしては、STEP2ではプログラムを受講する日本人学生を「Sekaten Buddy」として、また、海外相手大学の中心となる交流校のIUPの学生については「オンライン・チューター」として、それぞれの役割を位置付けることで、積極的な交流を促している。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 宮崎大学が開発に関わったフレーズ学習オンライン・コンテンツ「にほんごさるく」を活用して「初級」「初中級」「中級」「上級」の4レベルで日本語学習を提供した。このオンライン・コンテンツをJV-Campusに接続する準備を進めている。JV-Campusへは既に機関登録を終えており、2024年度は本学のシステムとの接続を予定している。
【特に優れた取組】 オンラインでの国際学習体験空間（メタバース空間）において、2023年度に仮想空間の整備を行うことができた。これにより、2024年度には、メタバース空間を活用したオンラインでの学生交流を試行する段階に至ることができた。今後、担当教員およびエンジニアが協働しながら、教員および学生の利用の展開と普及に努める予定である。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

宮崎大学の国際連携機構長のリーダーシップの元、大学全体で本事業の交流プログラムの内容、取り組みの進捗状況と現状課題に取り組む体制を整えた。具体的には、本事業事務局、プログラムPT（プロジェクト・チーム）委員会、推進本部を設置し、事業を担当する特別教員を配置した。課題となっているSTEP2およびSTEP3における単位化については、学び・学生支援機構および全学の教育質保証委員会等の関係部局と連携することで早期の単位化の実現を図る予定である。また、単位化された新設科目を含む大学間交流における教育の質の保証を担保するために、海外相手大学および国内連携大学との間で、教育の質保証に関わる組織の枠組みを形成することになっている。特に海外相手大学の中心となる交流校であるIUPのInternational Office専属教職員と、プログラム実施時期やカリキュラム調整について定期的な協議を行うことで合意しており、双方の担当教職員がシラバスの作成を通しての連携を取り始めている。今後、国内連携大学の間では、連携大学のプログラム運営代表者および実施担当者を委員とするプログラム運営委員会において、本事業の点検・評価を行うと共に、外部有識者を含めた第三者評価の実施を準備する予定である。

【特に優れた取組】

特になし

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

STEP2では、同期型のオンライン講義を主としつつ、講義を録画してオンデマンド配信を行い、時差への配慮、欠席の補講、および繰り返し学習を支援する環境を整えた。2024年度には実渡航での派遣・受入を行うことから、学生支援に向けた、海外相手大学との連携をより密にするために、Slackなど即時性の高いツールを活用した環境整備を進める。

【特に優れた取組】

派遣・受入に対応して学生を支援するために、本事業の専任事務職員1名を配置した。また、学生支援を円滑に進めるために、派遣・受入に係る教職員が同じフロアで物理的に近い環境で有機的に対応できる体制を整備した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

国内連携大学の長が一同に会して、報道向けに本事業『地域と世界を結ぶ「知」の循環：日・米・台・韓の地域からGXへ挑むグローバル人材育成事業』の採択および事業説明を行い、地域のテレビや新聞等に取り上げられた。継続的な情報の公開と成果の普及のために本事業のウェブサイトを開設、パンフレットの作成および配布を行った。また、本事業の全学的展開に向けて、COIL型教育および評価に関する2回のFD研修を実施した。

【特に優れた取組】

MIYAZAKI UX (University Transformation) 次世代を担うデジタル人材育成シンポジウム「知（学術）と地（宮崎）で値（社会価値）を創出する未来のオープンイノベーション」を開催し、本事業の取組については「世界展開力強化事業 デジタル技術を駆使した新しい留学」と題し、国際連携センター長が講演した。国内連携大学を含む県内大学や企業などが参加する中、大学関係者、文部科学省および総務省の関係者が基調講演を行い、産官学の視点人材育成について議論された。

(2) 特記すべき成果

STEP2において、初年度ながら、宮崎大学の農学部、工学部、医学部、教育学部の4学部から、また2つの国内連携大学から学生が参加し、海外相手大学の学生と主体的に交流した。STEP2（受入）では、GX及び日本文化理解について農学部、工学部、地域創成学部および学外の各分野の講師計10名が「自然・火山とともに暮らす日本」、「日本の再生可能エネルギーについて」、「廃棄処理の重要性、廃棄物のリサイクル」、「異文化理解：将棋、漫才について」など学際的かつ多様な視点で講義を行った。STEP2修了者に対する授業評価アンケートにおいて、5段階で4.7の満足度と内容の理解度が報告された。また、STEP2を修了した派遣および受入の各参加学生がSTEP3派遣プログラムへ参加が決定した。派遣に向けた学生への説明会、海外安全渡航セミナーの実施、航空券手配など、事務局である国際連携課の留学交流係やグローバル化推進係、国際連携センターのプログラム担当教員が、教職協働により体制を整えて学生への支援を開始した。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	129	129	200	190	258	248	316	306	384	374	1287	1247
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	129	129	180	170	238	228	296	286	364	354	1207	1167
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	129	129	200	190	258	248	316	306	384	374	1287	1247
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	129	129	180	170	238	228	296	286	364	354	1207	1167
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	117	21	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	117	21										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	91%	16%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

③：【交流形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			91	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		91	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	10								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			26	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		26	11								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

STEP1では、海外相手大学とCOIL型教育を実施した。COIL（派遣）については、宮崎大学実施のプログラムと海外相手大学のプログラムに参加した日本人学生数が目標を達成した。
STEP2では、宮崎大学の農学部、工学部、医学部、教育学部の4学部、および2つの国内連携大学からそれぞれ学生が参加し、修了した。派遣についておよそ7割を達成した。STEP3につ
いては、2024年度、STEP2を修了した日本人学生の米国と韓国への実渡航に向けた準備をしている。

【特に優れた取組】

初年度ながら、派遣において基幹校の宮崎大学だけでなく、国内連携2大学、受入において海外相手4大学の学生の参加を得ている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

STEP1では、海外相手大学とCOILを実施した。宮崎大学が実施のプログラムに海外相手大学学生が参加し、目標の9割を達成した。STEP2では、計画の海外相手5大学のうち4大学からそ
れぞれ学生が参加・修了し、受入れにおいて目標のおよそ6割を達成した。2023年度のSTEP2では、実施時期が春節にかかるなどしたため、参加者の減少、欠席の発生などを生じた。次
年度以降はより早い時期から調整を行い、各国・地域の状況に配慮したプログラムの実施を検討している。STEP3については、2024年度の実施に向けて、STEP2を修了した学生の受入
準備をしており、海外相手4大学から15名の学生が2024年7月に渡日し、宮崎大学が実施する受入プログラムに参加する。

【特に優れた取組】

STEP3の実施に向けては、事前研修および渡日プログラムの中で、工学部、農学部、地域資源創成学部など学部教員が参画して講義を行っている。また、学外では、環境省九州地方環境
事務所の専門家などの協力を得て実施準備が進められている。

(2) インターンシップ^oの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0	0	0

●合計人数

[illegible]

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

[illegible]

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

特になし

【特に優れた取組】

特になし

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

特になし

【特に優れた取組】

特になし

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

（５）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】（単位：校）

単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	1	2	1	2	1	2	1	2	1

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：宮崎大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	22	22	22	22	22
	認定単位数	A(学部生)	88	88	88	88	88
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	8	8	8	8	8
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	6	6	6	6
	認定単位数	A(学部生)	0	24	24	24	24
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	4	4	4	4
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	6	0	6	0
	認定単位数	A(学部生)	0	24	0	24	0
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	1	0	1	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	4	0	4	0
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	6	0	6
	認定単位数	A(学部生)	0	0	24	0	24
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	0	4
年度別認定者数合計			24	38	38	38	38
年度別認定単位数合計			96	152	152	152	152

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】（単位：校）

単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0								

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学 【大学名：宮崎大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：南九州大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	5	5	5	5	5
	認定単位数	A(学部生)	20	20	20	20	20
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	4	4	4	4	4
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A(学部生)	0	4	4	4	4
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	1	0	1	0
	認定単位数	A(学部生)	0	4	0	4	0
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	1	0	1	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	4	0	4	0
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	1	0	1
	認定単位数	A(学部生)	0	0	4	0	4
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	0	4
年度別認定者数合計			6	9	9	9	9
年度別認定単位数合計			24	36	36	36	36

2. 国内連携大学 【大学名：南九州大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	2	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	8	8	8	8	8
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	4	4	4	4	4
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A(学部生)	0	4	4	4	4
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	1	0	1	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	4	0	4	0
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	0	4
年度別認定者数合計			3	5	5	5	5
年度別認定単位数合計			12	20	20	20	20

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎学園短期大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	3	3	3	3	3
	認定単位数	A(学部生)	12	12	12	12	12
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A(学部生)	0	4	4	4	4
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			3	4	4	4	4
年度別認定単位数合計			12	16	16	16	16

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎学園短期大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（課題発見 集中オンラインコース）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ペンシルベニア州立 インディアナ大学（TBL・課 題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
順天大学校 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
台南応用科技大学 （TBL・課題解決発信学習）	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択）

令和6年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	琉球大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム		
	【英文】	Inter-island Sustainability Educational Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	石原 昌英	(所属・職名) 理事・副学長（教育・学生支援・国際交流担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://sekaten.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

① - 1 交流プログラムの内容

令和6年2月に米国ハワイ州で実施した短期派遣研修に今後のプログラムのリーダーとなり得る学生5名を派遣した。これらの学生は、異なる学部所属し、学部や専門分野を超えて太平洋島嶼地域が共有する課題について学習・調査を行った。ハワイ島ヒロ市では、ハワイの伝統的な養魚池であるFishpondsを再構築し、環境保護や文化継承の活動を行っているNPO法人のFishpondsの石垣を修復するボランティア活動に参加した。また、カウアイ島のハナレイ地区にあるWaipa Foundationを訪問し、伝統的な食物であるタロイモの栽培、コミュニティへの食料供給、地域環境の保全について学ぶ機会を得た。連携大学の学生との交流のみならず、現地コミュニティの人々との交流を通して、彼らが直面している環境、食、文化継承の問題についてPBLを実施することができた。

また、令和6年3月には、沖縄県で短期受入研修を実施し、連携大学4大学（米国のハワイ大学ヒロ校、カウアイ・コミュニティカレッジ、カピオラニ・コミュニティカレッジ、台湾の中国文化大学。）の学生5名を受け入れた。短期派遣研修の参加学生との共修を実施し、自国、他の参加学生の出身国、日本・沖縄が抱える人権、環境、言語継承に関連する問題や課題に対する気づきを得る機会となり、マインドチェンジの一助となったことが確認できた。

【特に優れた取組】

カウアイ・コミュニティカレッジの誰でも無料で利用できる寄附型Caféの訪問をきっかけに、短期派遣研修の参加学生が、琉球大学内でも無料で食品や衣類を提供する「パントリー・プロジェクト」の企画書を作成し、実現に向けて活動を開始した。この取り組みは、本プログラムが目指す社会問題や地域課題への解決に向けて、目的を持って行動できる人材の育成に繋がる。

① - 2 学生主体の国際交流プログラム

令和6年2月に実施したキックオフ・シンポジウムのIce Breaking Sessionとして、連携大学の教職員及び学生が参加する交流会を短期派遣学生主体で企画立案し、当日の運営までを担当した。交流会の内容や構成について事前打合せや検討を重ねた結果、大学の枠を超えた、良好なネットワーク形成の一助となった。

【特に優れた取組】

短期派遣研修に参加した学生は、琉球大学GCC(Global Commons Concierge。学生による学生のための留学・語学サポート組織)などの活動にも参加し、後続の支援を行っている。派遣学生の活躍は学内でも認知度が高く、彼らの活動が学内全体に波及し、特に学生の国際化・今後のグローバル人材の育成に継続的なインパクトとなることが期待される。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

COIL型講義が対応可能な分野や科目について連携大学と情報交換し、一部の科目については、COILを実施し、またはCOILの実施に向けて具体的な調整を進めた。さらに、各連携校との調整を踏まえた科目リストの案を作成した。キックオフ・シンポジウムをきっかけに、カウアイ・コミュニティカレッジと本学農学部教員がCOILを実施した。当該COILでは、本学の講義の録画データをカウアイ・コミュニティカレッジの学生及び教員が視聴し、カウアイ・コミュニティカレッジにおける講義のディスカッションに本学側の教員が参加する形式で実施した。

今年度は採択年につき、COILの実施について連携大学と調整を進めた。次年度は、講義動画もJV-Campusを活用して公開していく予定である。

【特に優れた取組】

今年度から新たな語学学習支援及び異文化理解に関連した取り組みとして、オンライン学習を活用した語学研修プログラム及びオンライン・ホームステイプログラムを実施した。語学研修プログラムは初級・中上級クラスを開講し、合計37名が参加した。また、ハワイのオンライン・ホームステイには本学から21名が参加し、ハワイ大学ヒロ校の学生1名が参加した。これらのプログラムの実施により、学生の専攻分野を問わず、英語運用能力の底上げを図り、短期研修または交換留学への参加に繋げる取り組みを行っている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

短期派遣研修に参加した学生は、キックオフ・シンポジウムにおいてプログラム紹介のプレゼンテーション及びQ&Aセッションにも対応できる程度の語学力を有しているだけではなく、個々の専門分野についても探究を深め、今後の学習や研究への展開が期待できた。これらの学習面の評価だけではなく、BEVIの受検により、異文化適応能力についても可視化し、質の保証を担保している。参加した本学学生は、英語語学能力中上級とされるレベルだったが、本プログラムへの参加で、語学学習へのモチベーション向上と短期研修または交換留学への参加希望への意欲醸成につながるフィードバックを得ることができた。

【特に優れた取組】

短期受入研修には、ジェンダー協働推進室との共催セミナーを組み込み、ジェンダー及び共生について、参加した外国人学生と本学学生がディスカッションを行う機会を設け、グローバル市民としての共生をテーマに交流することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本プログラムの運営委員会を設置し、委員には、各学部及びグローバル教育支援機構の教員を配置することで、本プログラムが掲げる太平洋島嶼地域の課題解決に向けた分野を網羅し、受入・派遣学生の学習または研究分野とは異なる内容の講義やプログラムを提供することで、超域かつ複合的な学習を促進できる環境を整備した。

今年度はコーディネーターの採用に至らず、学内の教職員が協力して環境整備を行った。次年度早期に採用して、更に学生支援環境体制を充実させる。

【特に優れた取組】

短期受入研修では、英語学、教育学、言語学などを学ぶ文系の学生に対して、海洋学及び医療工学の講義を提供したが、講義後のフィールド学習において、講義で学んだ内容を踏まえた文理双方の視点で学習する場面が多く見受けられた。今後も学習分野を超えて太平洋地域の複合的な課題解決に向けて思考できるようなプログラムを提供していく。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本プログラムのウェブサイトは、現在設置に向けて準備を進めている。短期研修への参加学生の募集情報等は、大学の公式ウェブサイトに掲載して対応している。

【特に優れた取組】

短期派遣研修に参加した学生は、FMぎのわんのラジオ番組「琉大やいび〜ん」にも出演し、本プログラムの概要、短期派遣研修の活動内容や研修先で得た経験について、一般にも広く広報することができた。

(2) 特記すべき成果

令和6年2月に、米国ハワイ州において「Inter-Island Sustainability Educational Program Kick-off Symposium 2024」を開催した。このシンポジウムには、本プログラムの連携大学5大学の代表者と本学学生及び教職員が約50名参加した。本プログラムがハブとなり、これまで交流のなかった、ハワイ語と台湾の原住民語の研究者間の交流、海洋科学、農学分野の新たな研究交流が派生するなど、良好なネットワークが形成されている。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

① プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	105	35	408	108	510	110	612	162	612	212	2247	627
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	100	30	400	100	500	100	600	150	600	200	2200	580
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	5	8	8	10	10	12	12	12	12	47	47

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	105	35	408	108	510	110	612	162	612	212	2247	627
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	100	30	400	100	500	100	600	150	600	200	2200	580
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	5	5	8	8	10	10	12	12	12	12	47	47

② プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有 無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	100	80	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	93	75								
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	7	5								
達成目標に対する実績の割合	95%	229%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調査分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			77	74	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	72	74								
ハイブリッド	A(学部生)	5	0									
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
ハイブリッド	A(学部生)	0	0									
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
ハイブリッド	A(学部生)	2	0									
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			21	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	21	1								
ハイブリッド	A(学部生)	0	5									
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
ハイブリッド	A(学部生)	0	0									
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
ハイブリッド	A(学部生)	0	0									

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

<単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数>令和6年2月に米国ハワイ州における短期派遣研修に今後のプログラムのリーダーとなり得る学生5名を派遣した。これらの学生は、異なる学部にも所属し、学部や専門分野を超えて太平洋島嶼地域が共有する課題について学習・調査を行った。短期派遣研修の事前研修においては、ホノルル市在住の沖縄県系移民とCOILを実施し、ハワイにおけるハワイ語の復興活動と沖縄県における琉球語の衰退を比較する機会を設けることで、実渡航期間に参加した「琉球語セミナー」において、ハワイ在住の沖縄県系移民と活発に意見交換することができた。短期派遣研修終了後は、FMぎのわんのラジオ番組「琉大やいび〜ん」にも出演し、本プログラムの概要、短期派遣研修の活動内容や研修先で得た経験について、一般にも広く広報することができた。

<単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数>交換留学制度により、ハワイ大学ヒロ校及びカウアイ・コミュニティカレッジに各1名合計2名派遣した。プログラムの詳細は、「特に優れた取り組み」に記載する。

<上記以外の交流期間30日未満の交流学生数>オンライン語学研修プログラムの参加学生37名及びオンライン・ホームステイプログラムの参加学生21名の合計58名が参加した。プログラムの詳細は、「特に優れた取り組み」に記載する。

【特に優れた取組】

短期派遣研修に参加した学生は、GCC(Global Commons Concierge)。学生による学生のための留学・語学サポート組織などの活動にも参加し、後続の支援を行っている。派遣学生の活躍は学内でも認知度が高く、彼らの活動が学内全体に波及し、特に学生の国際化・今後のグローバル人材の育成に継続的なインパクトとなることが期待される。

ハワイ大学ヒロ校に長期派遣（2学期間の交換留学）した学生1名は、同校の日本史・日本語専攻の学生にZoomで日本語を教えるチューター活動、キャンパス内の一般向けイベントにおいて運営のサポートを行なうボランティア活動及び沖縄県系移民が開催するワークショップにも参加し、派遣先大学の学生及び現地コミュニティの人々との交流に積極的に参加した。

また、カウアイ・コミュニティカレッジに長期派遣（2学期間の交換留学）した学生1名は、学業面ではDean's Listとして学長賞を受賞し、学内のInternational Clubの部長を務め、派遣先大学全体の国際交流の活性化にも広く貢献した。

長期派遣学生は、派遣期間中もGCCの活動のひとつとして、オンラインで留学体験を共有するイベントにも協力し、後継の育成にも積極的に協力している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

<上記以外の交流期間30日未満の交流学生数>短期受入研修に5名、オンライン・ホームステイプログラムに1名が参加した。

短期受入研修では、英語学、教育学、言語学などを学ぶ文系の学生に対して、海洋学及び医療工学の講義を提供したが、講義後のフィールド学習において、講義で学んだ内容を踏まえて学習する場面が多く見受けられた。今後も学習分野を超えて太平洋地域の課題解決に向けて思考できるようなプログラムを提供していく。

オンライン・ホームステイプログラムでは、ハワイ大学ヒロ校の学生1名がホストとして、参加した。

【特に優れた取組】

特になし

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	2	1	3	1	4	2	4	2	13	6
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	2	1	3	1	4	2	4	2	13	6

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	2	1	3	1	4	2	4	2	13	6
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	2	1	3	1	4	2	4	2	13	6

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	0	0								
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調査分

[illegible]

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航	A(学部生)	0	0								
	オンライン	A(学部生)	0	0								
	ハイブリッド	A(学部生)	0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

令和6年8月派遣開始予定の交換留学期間3ヶ月以上の交流学生2名が確定し、渡航に向けて準備を進めており、派遣先大学のカピオラニ・コミュニティカレッジにおける学期終了後もしくは、休業期間中にインターンシップを行えるよう、在ホノルルのハワイ沖縄連合会（HUOA）の協力を得ながら、情報収集を行っている。

【特に優れた取組】

特になし

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

令和6年10月受入開始予定の外国人留学生2名が確定しており、本学キャリア教育センターと連携してインターンシップ実施の準備を進めている。

【特に優れた取組】

特になし

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	3	5	3	5	3	5	3	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：琉球大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ハワイ大学ヒロ校	認定者数	A(学部生)	0	1	4	8	2
	認定単位数	A(学部生)	0	12	18	36	14
ハワイ大学カウアイコ コミュニティカレッジ	認定者数	A(学部生)	0	6	4	3	8
	認定単位数	A(学部生)	0	12	18	16	36
ハワイ大学カピオラニ コミュニティカレッジ	認定者数	A(学部生)	5	1	2	1	2
	認定単位数	A(学部生)	10	12	14	12	14
年度別認定者数合計			5	8	10	12	12
年度別認定単位数合計			10	36	50	64	64

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：琉球大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ハワイ大学ヒロ校	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ハワイ大学カウアイコ コミュニティカレッジ	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
ハワイ大学カピオラニ コミュニティカレッジ	認定者数	A(学部生)	0				
	認定単位数	A(学部生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）

令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○東日本国際大学、福島工業高等専門学校			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業		
	【英文】	Japan-US University Collaboration for Future Generation who can contribute to Reconstruction and Revitalization		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏 名)	中村 隆行	(所属・職名) 東日本国際大学副学長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL

※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

https://www.shk-ac.jp/international_exchange01_04.html#gsc.tab=0

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。	
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望	
① - 1 交流プログラムの内容	東日本国際大学副学長を代表とするスタッフが、2023年11月後半から12月前半に、米国ワシントン州トライシティーズに立地するワシントン州立トライシティーズ校及びコロンビアベイスン短期大学を訪問し、両大学の学長、副学長、本プロジェクトの担当者に対して、本プロジェクトの趣旨、内容等について説明し、本プロジェクトを継続して共同で実施していくことについて相互理解を確立した。その後、本プロジェクトを具体化するために、メールに加え、月1～2回程度の頻度でZoom会議を米国側(教学最高責任者や副学長等も含む)と継続して実施している。現段階の課題としては、単位互換の実効性を担保することと、中長期の学生交流プログラムの枠組みを構築することであるが、これについては、米国の相手大学も前向きに検討しており、今後それらの詳細を詰めていくこととなる。
【特に優れた取組】	本事業実施に関して、日米双方の学長、副学長等、教学担当責任者を含む定期的な会議を実施し、それぞれの国における単位認定のありかたといった基本的な事項から、教育プログラムを通じてそれぞれの学生の学修成果を何と定めるか、原理的なところから細部の詳細まで相互に連携して進めることができている。
① - 2 学生主体の国際交流プログラム	東日本国際大学学生8名及び福島工業高等専門学校学生2名の計10名の学生が2024年3月1日～17日までの17日間現地に滞在した際、プログラムの趣旨である原子力災害からの復興創生にかかわる現地調査（ハンフォードサイトに残る原子炉の見学や、ハンフォードの歴史を説明している博物館の訪問、ネイティブアメリカンの生活や文化を紹介する博物館の訪問、世界的な生産高を誇るポテトチップス工場やワイナリーの視察など地域の様々な機関等における実地研修含む）において、コロンビアベイスン短期大学、ワシントン州立大学の現地学生と共に行動しただけでなく、ハンフォード歴史プロジェクトの学習や、様々な授業への参加に加え、日本文化クラブとの交流、マルチカルチュラルフェスティバルなども共同で企画・実施するなど学生間の交流が進み、現地プログラムに参加した学生は、令和6年度（2024年度）のアメリカからの学生の受け入れに際して積極的に動くなど国際化の進展が見られる。
【特に優れた取組】	現地派遣した10名の学生は、コロンビアベイスン短期大学及びワシントン州立大学トライシティーズ校の学生だけでなく教職員とも連携を深め、本年度における現地からの受け入れに際して中心となって動いている。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム	オンラインのプログラムとして、福島側で作成する「福島浜通り復興創生学」の15回分の講義内容を企画してその収録を開始した。それらの講義内容は、事業責任者(東日本国際大学副学長)によるイントロダクションに続いて、様々なステークホルダー(いわき市、福島浜通り市町村、東京電力、浅野燃糸株式会社)の取り組み、研究機関・高等教育機関(福島国際研究教育機構、東日本国際大学、福島県立医科大学、福島工業高等専門学校)の取り組み、市民活動(福島ダイアログ、福島新復興論)の取り組みで構成している。加えて、米国側で作成する「ハンフォード復興創生学」の内容に関する検討を開始した。
【特に優れた取組】	「福島浜通り復興創生学」の作成に際しては、アメリカ側の連携大学の意見も取り入れ共にプログラムを構築し、復興創生を担ってきた幅広いステークホルダー(他大学教員、地方自治体、民間企業、市民活動家等)の協力を得た、多方面に渡るものとなっている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 本プロジェクトを具体的な内容等を検討するために、メールに加え、月1～2回程度の頻度でZoom会議(世界展開力強化事業推進会議及び日米間担当教職員連絡調整会議)を米国側(教学最高責任者や副学長等も含む)と継続して実施している。2024年3月6日(ハンフォード)、3月7日(福島)に、2023年度日米共同ワークショップ(米国側参加者8名、日本側参加者7名)を、Zoomを活用して実施し、日米間で構築するカリキュラムの内容、講義方法等について議論した。加えて、日米間の学生交流が日常的に実施できるよう、日米間交流用接続機器を設置した。また、本事業を推進するための非常勤教員二名採用し、これらの二名については、2024年4月から専任教職員となった。さらに、EnglishScoreを活用した学生の英語能力計測を開始するとともに、BEVIを推進している広島大学の教員を招へいし講演会を実施するなどBEVIの導入に向けた準備を行った。
【特に優れた取組】 米国側と定期的なオンライン会議を設定し、理念的な部分や制度的な部分から、実際のプログラムの細部に至るまで定期的な議論ができていること、またアセスメントに関して専門家の意見を諮ることができていることが特筆すべき点である。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 2023年度の日本人学生の派遣に際しては、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(協定派遣)の制度を活用するとともに、一般社団法人「福島浜通りトライデック」から派遣学生に対する奨学金授与の支援を得た。また現地では連携大学がホームステイ先の調整に動いてくれており、受け入れについても同様の手厚い対応を行う。
【特に優れた取組】 福島浜通り地域の復興創生について、草の根の観点から活動を実施している一般社団法人「福島浜通りトライデック」から日本人学生派遣や外国人学生受入に関する財政的な協力を得ることができ、また受入れ・派遣の両方において、ホームステイを含む家族ぐるみの受け入れ態勢が構築されつつある。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 学生の留学機運が高まり、本事業外においても、トビタテ！留学JAPANでの留学希望者なども増えている。2023年度の日本人学生の派遣に際しては、2024年2月にマスコミにも公開して結団式を実施した。また、2024年6月にはマスコミをふくめ広く一般市民にも公開して研修報告会を実施した。その様子は新聞等にも掲載されるとともに、大学のホームページにおいても公開した。
【特に優れた取組】 マスコミを含め広く一般市民に対しても米国ハンフォード地域への実地研修会の報告会を開催することが出来た。また、この報告会は、福島国際研究教育機構(F-REI)と東日本国際大学などを所管する学校法人昌平黌との連携協力協定締結式の関連イベントとして企画された。
(2) 特記すべき成果 現地派遣した10名の学生は、コロンビアベイスン短期大学及びワシントン州立大学トライシティーズ校の学生や教職員の自宅にホームステイして、アメリカの文化や習慣を直接体験した。また、福島側で作成する「福島浜通り復興創生学」の15回分の講義内容を企画してその収録を開始した。それらの講義内容は、事業責任者(東日本国際大学副学長)によるイントロダクションに続いて、様々なステークホルダー(いわき市、福島浜通り市町村、東京電力、浅野燃系株式会社)の取り組み、研究機関・高等教育機関(福島国際研究教育機構、東日本国際大学、福島県立医科大学、福島工業高等専門学校)の取り組み、市民活動(福島ダイアログ、福島新復興論)の取り組みで構成している。

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	0	43	16	47	24	44	28	44	28	184	96
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6		9	4	11	6	8	4	6	4	40	18
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）			34	12	36	18	36	24	38	24	144	78
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	0	43	12	47	18	44	24	44	24	184	78
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	0	9	0	11	0	8	0	6	0	40	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	34	12	36	18	36	24	38	24	144	78
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	10									
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）										
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	167%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	8									
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	A(学部生)	2									
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本プログラムへの学生の関心は高く、当初計画の6名を大幅に上回る10名の派遣実績をつくることができた。
また実施に際して、アメリカ側連携大学の手厚い協力があり、ホームステイを通じた交流も手厚く実施することができた。

【特に優れた取組】

連携大学と協働して調整したプログラムの詳細と、ホームステイといった手厚い歓迎による学生の体験の向上。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

交流プログラム(受入)については、2024年度からの開始を目指し、連携大学の意見も聞きながら調整を進めてきた。
アメリカ側での人気も高く、当初計画の4名を上回る5名を受け入れる予定（なお倍率は20倍を超えているとのこと）である。

【特に優れた取組】

アメリカに渡航した学生が、受け入れる学生を出迎える双方向での交流体制の構築が進みつつある。

(2) インターンシップの実施状況について												
①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	0	3	1	4	1	3	1	11	3
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			1		3	1	3		2	1	9	2
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）							1	1	1		2	1
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	0	3	1	4	1	3	1	11	3
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	1	0	3	1	3	0	2	1	9	2
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）												
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）												
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）												
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）												
		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント												
インターンシップの内容（受け入れ可能な機関や期間）について、日米間で協議を開始している。												
【特に優れた取組】												
インターンシップの受け入れ先として、それぞれの地域の地域復興・創生の中核となっている組織を検討できている点。												
⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント												
インターンシップの内容（受け入れ可能な機関や期間）について、日米間で協議を開始している。												
【特に優れた取組】												
インターンシップの受け入れ先として、それぞれの地域の地域復興・創生の中核となっている組織を検討できている点。												
(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）												
●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム												
開催年月		プログラム名称							参加者数			
											人	
											人	
											人	

（５）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】（単位：校）

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
単位互換を実施する 海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			1		1	1	1			1

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東日本国際大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ワシントン州立大学 トライシティーズ校	認定者数	A(学部生)		1		1	
	認定単位数	A(学部生)		6		6	
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	1	0	1	0
年度別認定単位数合計			0	6	0	6	0

2. 国内連携大学 【大学名：福島工業高等専門学校】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
コロンビアベイスン 短期大学	認定者数	A(学部生)			1		
	認定単位数	A(学部生)			10		
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	1	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	10	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】（単位：校）

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
単位互換を実施した 海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学 【大学名：東日本国際大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ワシントン州立大学 トライシティーズ校	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：福島工業高等専門学校】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
コロンビアベイスン 短期大学	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	関西国際大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	次世代DX環境における安全・安心な社会基盤構築とホスピタリティー・ビジネスの展開		
	【英文】	Building a safe and secure social infrastructure and developing the hospitality business within the next-generation DX environment		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏 名)	芦沢 真五	(所属・職名)	副 学 長
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.kuins.ac.jp/GlobalExpansion/index.html>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で2ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

① - 1 交流プログラムの内容

取組状況: 1. 派遣プログラムでは、米国の海外協力大学であるCollege of the Canyonsへ8名、College of the Desertへ7名、Hawaii University Kapiolani Community Collegeへ6名、合計21名をそれぞれ約10日間派遣した。現地大学にて、防犯や観光に関わるフィールド研修に参加し、現地における日系コミュニティの歴史、安全対策、観光産業の歴史に関する講義とフィールドワークを行い、日本の観光政策との相違を学習した。さらに、現地学生とのグループワークを通じて、思考や文化の違いについても学ぶことが出来た。ハワイへのプログラムでは、現地大学でハワイの観光産業や日系移民についての歴史を学修し、またホノルルフェスティバルの運営スタッフとしてインターンシップに従事した。帰国後、研修成果をポスター発表形式に仕上げ、学内の報告会で一般学生、教職員の前でプレゼン発表した。

2. 受入プログラムでは、海外協力大学4か国6大学から、学生16名、教員6名および本学から3名の学生が参加し、神戸にて10日間の国際協働学修プログラムを実施した。日本の観光ホスピタリティ産業および防災・防犯による安全・安心な社会基盤整備に関する、神戸、大阪の取り組みについて研修を重ねた。また、研修成果報告会を開催し、グループごとに参加者のアイデアに基づく日本の観光産業に関する提案および防犯体制の比較等について、引率教員及び研修先担当者的前で英語にて発表した。

今後の展望: 1. 2024年度は、派遣プログラムは、上記3大学に合計25名を派遣する予定である。2. 受入プログラムは、海外協力大学の4校から学生7名および引率教職員を招へいし、本学学生と共に国際協働プログラムを実施する予定である（3月予定）。

【特に優れた取組】

受入プログラムでは、行政（兵庫県庁、赤穂市、大阪観光局）および地域の方々との連携を通じ、参加学生は多角的な視点から日本の観光ホスピタリティ産業について学修し、考察することができた。

① - 2 学生主体の国際交流プログラム

取組状況: 本学を含め、4か国7大学からの学生19名がグループに分かれ、英語により研修成果を発表した。

プログラム期間中の研修講義を担当した兵庫県庁職員、NPO法人理事および本学教員が審査員として参加し、優秀なグループに対して表彰を行った。ゲストや国内外教員陣より各グループ発表に対する質疑応答や講評が行われ、研修に対する振り返り、議論や考察の発展へと繋げることができた。学生たちは、様々な文化的背景や言語、個性、考え方の違いを乗り越えてチームで作業することを通じ、協調性が育まれその大切さを実感することができた。

今後の展望: 2024年度以降も引き続き受入プログラムの最終日に研修成果発表の機会を設け、国際協働学修を促進する。

【特に優れた取組】

特になし。

① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム

取組状況:事前研修として開催した2回のオンラインセッションに、本学学生に加え、海外協力大学（4か国6大学）の学生および教員も積極的に参加し、プログラムの概要理解やアイスブレイクを実践するなど、来日前から交流を開始し、双方向の協働学習を行った。その際、メッセージングアプリ「Slack」を通じて情報伝達を一元化した。

今後の展望:1. 各年度の受入国際協働学修プログラムに参加した学生と教員のネットワークを継続しつつ、過年度のプログラム参加者も交流できるよう拡大・発展させていく。2. 海外協力大学との間において双方向によるCOIL型オンライン授業の実施、およびJV-キャンパス活用についても拡充していく。

【特に優れた取組】

オンライン事前研修（2回）に、海外からの参加学生、教員が参加し、渡航前に協働学習を開始した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

取組状況:プログラムの実施にあたり、Safety and Security & Hospitality Management Committee（SSHM）国際協働プログラム推進委員会を設置した。海外協力大学の担当教員及び事務局で構成し、2023年度は2回開催した。研修期間の調整、プログラム内容の確認、研修後のプログラム評価などを行い、プログラムの質の確保に努めている。また、海外協力大学の教員は視察だけでなく、プログラムの講師も担い、活発に運営に係わっている。

今後の展望:2024年度の実施内容、時期および中・長期プログラムやインターンシッププログラムの実施可能性について、引き続きSSHM国際協働プログラム推進委員会において議論を行い、連携を深める。

【特に優れた取組】

来日前からの交流を経て、神戸受入プログラム期間中は、本学の教員も含め4か国7大学の教員によるパネルディスカッション、海外引率教員による専門分野についての特別講義を盛り込むなど、SSHM国際協働プログラム推進委員会の構成メンバーの協力を得て、学修効果の高いプログラムを構築することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

取組状況:1. 専属の職員を配置し、外国人学生の受入のために渡航手配、宿舍手配、参加案内、事前研修の準備などきめ細やかな支援を行った。また、英語運用能力の高いアルバイト2名を雇用し、滞在中のアテンドやグループワークの補助など学修サポートを行う体制も整えた。2. 派遣学生に対しても同様の支援を行うとともに、英語運用能力の強化を図るため、英語講師によるプライベートレッスンの機会拡充を図るとともに、渡航前に現地大学教職員によるオンラインでの概要説明等の基礎学習機会を提供した。

今後の展望:派遣学生への英語講師によるプライベートレッスン、グループレッソンを強化するとともに、英語圏への長期留学を視野に入れた準備として、大学主催でIELTS試験を実施すると共に、IELTS試験対策講座も開講する。

【特に優れた取組】

受入学生に対しては細やかな支援体制を提供し、派遣学生に対する長期的な英語強化支援を整備している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

取組状況:本「大学の世界展開力強化事業」(米国)のページを新たに立ち上げ、プログラム概要、ニュース、参加学生の活動報告(動画コンテンツ含む)を順次掲載できるよう、本事業の社会への公開および広報を継続的に行う仕組みを構築した。

今後の展望:2024年度の取り組みについても順次情報を公開していく。

【特に優れた取組】

2022年度から2年度連続して採択された「大学の世界展開力強化事業」の取り組みについて、国際大学としての本学の活動内容を、動画、写真を多用し、参加した学生、教員の声を、日本語及び英語にて広く一般社会へ公開している。

(2) 特記すべき成果

短期派遣、受入プログラムとも、日本人学生と海外学生との協働学修の場を設け、相互理解、文化交流を促進することができた。また、派遣プログラムに参加し、現地で観光ホスピタリティを学習した学生は、神戸プログラム参加のために来日する海外学生に対して、自分たちの住む街や食文化を紹介しようと、渡航前よりも積極的な姿勢が見られた。神戸プログラムにおいては、海外学生は日本人学生から日本文化や日本事情等を教わり、また日本人学生はグループワークで意見を伝えることの難しさを実感しながらも、研修成果をグループで英語を用いて発表し、協働学修を深化させることができた。

2. 交流学生数の実績等【(1)(2)はそれぞれ6ページ以内、(3)(4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	192	72	202	72	209	78	209	78	209	78	1021	300
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	0	2	5	9	11	9	11	9	11	31	38
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	170	60	180	60	180	60	180	60	180	60	890	300
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	20	12	20	7	20	7	20	7	20	7	100	40
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	192	72	202	72	209	78	209	78	209	78	1021	378
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	0	2	5	9	11	9	11	9	11	31	38
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	170	60	180	60	180	60	180	60	180	60	890	300
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	20	12	20	7	20	7	20	7	20	7	100	40
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	21	16	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	0	0										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	21	16										
達成目標に対する実績の割合	11%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド		21									
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	16	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド			16								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											
	オンライン											
	ハイブリッド											

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

米国・ロスCollege of the Canyons、米国・パームスプリングCollege of the Desert、米国・ハワイ Hawaii University Kapiolani Community Collegeへの派遣プログラムを実施した。

学生は、派遣国に約10日間滞在し、現地大学にて、防犯や観光に関わるフィールド研修に参加するとともに、現地における日系コミュニティの歴史、安全対策、観光産業の歴史について講義とフィールドワークを通して学び、また、日本の観光政策との相違を学習できた。さらに、現地学生とのグループワークを通じて、思考や文化の違いについても経験を積むことが出来た。ハワイへの派遣プログラムにおいて、前半はHawaii University Ka'apiolani Community Collegeにて現地大学教員によるハワイの観光産業や日系移民についての歴史を学修し、後半はホノルルフェスティバルの運営スタッフとしてインターンシップに従事した。学生たちは本プログラムの成果報告として、2024年5月、学内にて開催したグローバルスタディ全体報告会において現地活動で学習した内容を整理、考察し、振り返りについてグループ発表を行った。

【特に優れた取組】

特になし。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

海外協力大学の4か国6大学から、学生16名、教員6名及び本学から3名の学生が参加し、神戸にて10日間の国際協働学修プログラムを実施した。日本の観光ホスピタリティ産業および防災・防犯による安全・安心な社会基盤整備に関する、神戸、大阪の取り組みについて研修を重ねることが出来た。研修のまとめとなる研修成果報告会を開催し、グループごとに参加者のアイデアに基づく日本の観光産業に関する提案および防犯体制の比較等について英語で発表した。海外からの参加学生は、研修中に日本の文化・慣習やその根底にある精神や考え方について触れる機会が多く、自らの文化背景と比較してその違いに驚きながらも、理解することができた。

【特に優れた取組】

海外協力大学より招へいた引率教員との来日前、来日後の打ち合わせを経て、神戸受入プログラム期間中に5か国7大学からの教員によるパネルディスカッションや、海外引率教員による専門分野についての特別講義を盛り込むなど、SSHM国際協働プログラム推進委員会の構成メンバーの協力によって国際協働学修効果の高いプログラム構成の一助とすることができた。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

[illegible]

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計人数

[illegible]

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

[illegible]

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

[illegible]

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		6	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

ハワイへの派遣プログラムにおいて、前半はHawaii University Ka'ipiolani Community Collegeにて現地大学教員によるハワイの観光産業や日系移民についての歴史を学修し、後半はホノルルフェスティバルの運営スタッフとしてインターンシップに従事した。

【特に優れた取組】
特になし。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

神戸受入プログラムにおいて招へいた学生のうち複数名より日本により戻ってきたいと声が上がっていたが、なかでも米国のコミュニティカレッジ在籍者は多くが社会経験を持っており、来日目的としてインターンシップに興味を持つケースが多いため、受入の可能性（受入先企業の開拓、受入体制の確認）について検討している。

【特に優れた取組】
特になし。

（3） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

（５）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績												
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】												
（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】												
(単位：校)												
単位互換を実施する 海外相手大学数			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			6	0	6	0	6	6	6	6	6	6
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】												
(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)												
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】												
1. 代表申請大学 【大学名：関西国際大学】												
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度					
California State University Fullerton	認定者数	A(学部生)			1	1	1					
	認定単位数	A(学部生)			16	16	16					
College of the Canyons	認定者数	A(学部生)	10	10	11	11	11					
	認定単位数	A(学部生)	10	10	26	26	26					
College of the Desert	認定者数	A(学部生)	10	10	11	11	11					
	認定単位数	A(学部生)	10	10	26	26	26					
Kapi'olani Community College	認定者数	A(学部生)	2	2	3	3	3					
	認定単位数	A(学部生)	2	2	18	18	18					
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)			1	1	1					
	認定単位数	A(学部生)			16	16	16					
Universiti Utara Malaysia	認定者数	A(学部生)			2	2	2					
	認定単位数	A(学部生)			32	32	32					
年度別認定者数合計			22	22	29	29	29					
年度別認定単位合計			22	22	134	134	134					
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】												
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度					
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0					
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0					

【2023年度末における目標の達成状況】												
（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】												
(単位：校)												
単位互換を実施した 海外相手大学数			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			3	6								
（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】												
(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)												
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】												
（ⅰ）代表申請大学 【大学名：関西国際大学】												
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度					
College of the Canyons	認定者数	A(学部生)	8									
	認定単位数	A(学部生)	16									
College of the Desert	認定者数	A(学部生)	7									
	認定単位数	A(学部生)	7									
Kapi'olani Community College	認定者数	A(学部生)	6									
	認定単位数	A(学部生)	6									
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
年度別認定者数合計			21	0	0	0	0					
年度別認定単位合計			29	0	0	0	0					
2. 国内連携大学 【大学名： 大学】												
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度					
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
	認定者数											
	認定単位数											
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0					
年度別認定単位合計			0	0	0	0	0					

大学の世界展開力強化事業（令和 5 年度採択）
令和 6 年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○関西大学、東北大学、千葉大学			
主な交流先	米国			
事業名	【和文】	Blended Mobility Project（BMX）で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出		
	【英文】	Blended Mobility Project(BMX) for Society 5.0 HR(Human Resources)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏 名)	藤田 高夫	(所属・職名) 関西大学副学長・国際部長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/>

1. 取組内容の進捗状況【（1）と（2）で2ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における <u>2023年度</u> の取組内容について記入してください。
（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
① - 1 交流プログラムの内容 本事業の交流プログラムのテーマはBlended Mobility（デジタル化・オンライン化した教育を、渡航留学活動と有機的に融合した学修）Project（BMX）で生み出す「Society5.0 人材」の育成である。2023 年度にJIGE（Japan hub for Innovative Global Education）拠点を連携設置し、このチーム組織において以下の共通した交流活動の推進を行っている。
【特に優れた取組】 2023年度実施した派遣プログラムの中で特徴的であったのは、フロリダ国際大学（FIU）・スペインのカルデナル・ヘレラ大学（CEU）、そして日本は千葉・東北・関西大学の3大学 が合同で実施したJIGE Blended Mobilityプログラムである。国内3大学すべての大学の学生が参加した点も、本事業の連携の意義として十分な実績とすることができた。また、BMXをより広く理解してもらうため、ホームページを開設しその中で明確な定義や事例を記載した。（参考URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/）
① - 2 学生主体の国際交流プログラム 2023年度は、WorldEXPO2025を控えた中、EXPO2025共創チャレンジプロジェクトへの正式な参加申請を行い、承認されている。2023年12月に実施された共創チャレンジ発表イベントにも参加し、学生たちが今後この機会を活用しオンラインとオフライン現地で交流を行うことができるよう環境整備を行った。2024年1月には、学生たちが主体的に参加し実施したEntrepreneurshipプログラム（ソーシャルビジネス企画を考えだし実際の企業等の前でプレゼンを行う）や、2023年10月-2024年1月で行われたKandai's Got Talent（外国人留学生が主体となったポスターセッションイベント）も実施した。
【特に優れた取組】 Entrepreneurship Pitch Program（2023年10月～2024年1月）：合計6名の外国人留学生と日本人学生が、日本発として世界展開するスタートアップソーシャルビジネス企業Peel Lab、The Indus Entrepreneurs (TiE)よりナリン・アドバニ氏、Cambridge Innovation Center (CIC) Tokyoより名倉 勝（なぐら まさる）氏、XVC有限責任事業組合より津田 真吾（つだ しんご）氏とも連携し独自のビジネスプランを学びのアウトプットとして計画し、集大成を発表した。企業人の他、経済産業省からのゲストなども参加いただき、学生主体であり、なおかつ留学生と日本人学生が共修活動を行うことで実現した点において、今後のモデルケースとなる取組であるといえる。当日の様子は以下のJIGE（IIGE）ホームページ記事からも読み取れる。（参照URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/en/new/detail/?id=28）。
① - 3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム JV-Campus使用と双方向交流学習の機会を有機的につなげた活用として、2023年度に関西大学が主体的に作成した「外国人留学生のためのキャリア支援モジュール」（参照URL：https://www.jv-campus.org/jvc-provider/163/）を完成させ、公開にいたっている。また、このコンテンツを活用し、本事業の海外連携大学の学生達や、これまでにオンライン協働学習で連携経緯のあるグローバルネットワークメンバー大学において活用を促すため、周知活動を開始し、2024年度も継続して推進を図っている。2023年度は、JIGE連携大学である台湾（東呉大学）、シカゴ（DePaul大学）、サウスカロライナ（Clemson大学）と実施したCOIL型教育においてコンテンツ活用を行った。
【特に優れた取組】 JIGE事業としてJV-Campusを活用する上で、より双方向の学びとなるよう、J-Campus Community (J-CC)というフォーラムベースのアプリも導入し、この2つのコンビネーションでコンテンツの活用を推進している。J-CCについては、JIGEのホームページでも紹介している（参照URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/program/）。JV-CampusからJ-CCへと動線を作ることで、学びの双方性を高め、渡航留学において滞在する際にも、繋がりによって心理的な面からもサポートがある環境を提供することができる。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 調書予定通り、国際公募によって教員および専門職ポジションとしてのコーディネーターの人事採用を行い、JIGE事業の実施体制が固まった（参照URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/about/）。 千葉大学と関西大学間では教育研究の連携協力に関する協定を無事締結した。今後の大学間交流の枠組みのインフラとして欠かせないのが、デジタルプラットフォームの形成だが、2023年度は、JV-Campusの開発部署と連携し、「学びのアトリエ」特設サイトを完成させ、Aterlier(アトリエ)-MCP(Multilateral COIL Program)科目での活用から着手し始めている。このサイトにおいて、今後PREP-ENG（COIL前に参加するオンライン型学習プログラム）や、リモートインターンシップモジュールの提供も展開する計画である。この他、ドクトラルコロキアムの準備交渉を海外連携大学と進めるといった活動が2023年度期間には行われた。
【特に優れた取組】 質の保証を担保する上で、世界水準の国際教育のアドバイジングとモニタリングを受けることができる環境整備のため、「JIGE アドバイザリーボード」をローンチさせた。海外の有識者も多く参加を依頼しているため、このローンチと情報発信を兼ね、2024年2月にワシントンDC、日本大使館に協力いただき交流会第一回を開催した。その時の様子は以下のURLを参照されたい（参照URL：https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/pr/topics/2024/02/post_76197.html）。今後このアドバイザリーボードのメンバーには、定期的な連携を依頼しつつ、例えば年次で実施する「国際フォーラム」でキャパシティビルディングプログラムを提供する等の計画も進める。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 受入れと派遣のプログラムを担うため、新たな人員の配置が行われた（助教職位）。JIGE コーディネーターの内1名は、外国人留学生支援を主担当とし、BM プログラムにおいて来日し関西大学にて修学する層の日々の言語、生活、学習、キャリア形成に関するあらゆるサポートを行う。また、2023年度は、国内外におけるキャリア形成サポート活動として、法人協力組織と3大学、そして留学生就職促進コンソーシアムSUCCESSとの（産学）連携にて実施し、留学生達が参加できるイベントを、年間を通して実施した。
【特に優れた取組】 先述のKGT(Kandai's Got Talent)事業は、2023年度は関西大学のみで試行的に実施したものであるが、次年度は3大学の学生の参加を促す連携事業として展開させる予定である。この事業では、外国人留学生が国内外の社会問題を取り上げその問題のありかの究明と、解決策の提案をポスターセッションで発表するものである。合計110名の企業の代表者や人事担当者などが最終発表会に参加し、外国人留学生がよりキャリアを意識した留学体験ができるように導く取組として大変効果の高いものとなった（参照URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/en/new/detail/?id=63）。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 JV-Campusにおいて、新たな国際化促進フォーラムプロジェクトとして「アトリエ MCP」を設定した。初年度からの数年は国内3大学での「横展開」となるが、その後本事業終了までにより多くの大学が参加可能なものとして拡充を予定するものである。まなびのアトリエのページを用いて、今後A-MCP、PREP-ENG、PREP-JPNなど、多くのオンライン双方向学習型教育コンテンツをこのプラットフォーム上で提供予定である。また、JIGEのPR紹介動画、およびホームページが完成している（参照URL：ホームページ：https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/JIGE/；PR動画（日）：https://youtu.be/OQ5ddgTFAjc, PR動画（英）：https://youtu.be/NcAYukVD2lQ）。
【特に優れた取組】 2024年1月24-26日に、JIGEのキックオフシンポジウムを実施した。海外からも6名を招聘し、加えてシンポジウムに合わせて来日し参加した海外大学からの参加者らが合計3名、3大学のメンバーと合流し盛会となった。1日目は千葉大学墨田キャンパスにてワークショップ形式でキャパシティビルディングの機会の提供を行い、2日目は基調講演などを含む事例報告を行った。3日目にも分科会形式でワークショップを行った他、先述のビジネスピッチコンテスト（アイデアソン）も同日実施した。オンラインでも69名の参加があり、国内外に本事業の認知度を高める良い取組となったと言える。
（２）特記すべき成果 ①3大学間の連携が基盤となる本取組において、事業運営体制をしっかりと構築し、今後の実働アクションを進めることができるように整備した点は、2023年度の大きな成果であるといえる。現在、定期的な運営委員会実施の他、密に連絡をとるためのソーシャルアプリケーション（SlackやO'vice）など、DX時代に見合った活動の進め方を採用し慣行化を進めている。②各大学独自のBlended Mobilityプログラムがある中で、共通して実施するプログラムが実現している点も言及に値する。特にFIU（アメリカ）・日本3大学・CEU/URV(スペイン)の3拠点連携で実現したCOIL＋研修派遣PJは学生にも大変好評価であり、本事業の象徴的なモデルとなった。

2. 交流学生数の実績等【(1) (2) はそれぞれ6 ページ以内、(3) (4) で1 ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	628	397	1947	1136	2805	1601	3268	2083	3891	2294	12539	7511
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	63	13	183	52	186	69	197	96	200	119	829	349
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	474	363	1446	1007	2218	1429	2619	1881	3207	2066	9964	6746
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	91	21	318	77	401	103	452	106	484	109	1746	416
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0									0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0									0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0									0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	628	397	1947	1136	2805	1601	3268	2083	3891	2294	12539	7511
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	63	13	183	52	186	69	197	96	200	119	829	349
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	474	363	1446	1007	2218	1429	2619	1881	3207	2066	9964	6746
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	91	21	318	77	401	103	452	106	484	109	1746	416
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	511	364	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	110	23										
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	308	331										
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	93	10										
達成目標に対する実績の割合	81%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航		413	343	1530	831	2224	1175	2603	1423	3064	1530
	オンライン		43	0	146	32	146	41	146	62	146	77
	ハイブリッド		349	328	1169	758	1828	1073	2187	1300	2648	1392
			21	15	215	41	250	61	270	61	270	61
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航		10	0	86	24	154	30	185	46	212	50
	オンライン		0	0	7	2	8	2	14	2	14	2
	ハイブリッド		10	0	77	20	142	26	167	42	194	46
			0	0	2	2	4	2	4	2	4	2
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航		19	16	20	19	20	29	22	38	22	49
	オンライン		19	13	20	13	20	20	22	26	22	34
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0	3	0	6	0	9	0	12	0	15
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航		186	30	260	55	375	75	435	90	568	130
	オンライン		1	0	0	0	2	0	5	0	8	0
	ハイブリッド		115	30	170	55	238	75	265	90	365	130
			70	0	90	0	135	0	165	0	195	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航		0	0	0	28	0	48	0	74	0	82
	オンライン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	24	0	44	0	70	0	78
			0	0	0	4	0	4	0	4	0	4
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航		0	8	21	149	22	234	23	411	25	453
	オンライン		0	0	10	5	10	6	10	6	10	6
	ハイブリッド		0	5	0	120	0	201	0	378	0	420
			0	3	11	24	12	27	13	27	15	27

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			391	317	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		56	5								
	オンライン		257	302								
	ハイブリッド		78	10								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			25	29	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		25	0								
	オンライン		0	29								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			7	16	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		7	16								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			58	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		17	2								
	オンライン		26	0								
	ハイブリッド		15	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			29	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		4	0								
	オンライン		25	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		1	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

【関西大学】 2023年度は事業期間が短い中ではあったが、従来の連携や交流を続けている海外連携大学との関係性を生かし、双方の協力的な貢献によって記述した複数のBlended Mobilityプログラムを新規構築し実施することができた。関西大学で実施しているBMは、すべて渡航研修前にCOIL型教育を取り入れた双方向型の学びを数週間にわたり実施し、その学びをベースとして、現地でのフィールド研修を行うものとなっている。オンラインによる交流については、単位を伴うプログラムと伴わないプログラムで差異はあるが、参加者数は一定の伸びがあり、コロナ禍収束後もオンライン型の交流学習への関心は維持できているといえる。派遣予定の数値は、いずれも目標とした数値を上回るか近い実績となっている。 【東北大学】 質の高い教育プログラムの提供に尽力したが、円安や物価高の影響もあり、人数が伸び悩んだ。今後はより多様な形態でのモビリティを実現させることで学生の派遣を促し、目標値の達成を目指す。2-3月にカリフォルニア大学リバーサイド校に派遣された本学学生が、渡航前から準備を進め、実際に渡航後、現地の中学校・高校・大学にて日本文化体験ワークショップを実施した。また、グローバルラーニングセンターのアドミニストレイティブ・アシスタント学生や、留学生の支援に取り組む学生団体が、フィールド・トリップや言語学習支援イベントを定期的に開催した。 短期海外派遣プログラム（海外相手大学：ノースカロライナ大学シャーロット校、カリフォルニア大学リバーサイド校、ウォータールー大学、マラヤ大学）、入学前研修（海外相手大学：ハワイ大学マノア校）にて、オンラインによる現地職員や現地学生との国際共修の要素を含むプログラムを実施した。また、短期海外受入プログラム用に日本語学習のオンデマンド教材を開発し、JV-Campusでの配信準備を進めている。 【千葉大学】 2023年度はプログラムの初年度にあたり、まずはCOIL-JUSUプログラムで開発された既存プログラムの継続的かつ安定的な運用と、そのノウハウを吸収し試行的な新規プログラムの開発に取り組んだ。派遣については、オンラインが81名、ハイブリッドが22名、計103名の学生を派遣した。オンラインと実渡航を組み合わせたハイブリッド形式により、学生主体の交流を促進しようと試みた。特にデザインに関連するプログラムでは、同じディシプリンを学び、アウトプットの形式も明確であるという特性に加え、デザインという行為そのものが非言語的とはいえ、コミュニケーションのあり方の一形態であり、デザインを媒介とする積極的な交流により、学生相互が刺激を与え合うワークショップが構築された。また、オンラインの活用ということで、アラバマ大学と千葉大学で共に利用可能なLMS(Moodle)サーバーを立ち上げ、それを利用したプログラムを開発した。2023年度に試行的に学生が自身の研究プロジェクトを英語で説明する動画を収録、編集し、その動画をLMSにアップロードし、その動画に対して、日米から質疑応答のディスカッションを行うプロジェクトを行った。今後これを一つのモデルとしプログラムの拡充を図っていきたい。 【特に優れた取組】 2023年度実施した派遣プログラムの中で特徴的であったのは、フロリダ国際大学（FIU）・スペインのカルデナル・ヘレラ大学（CEU）、そして日本は千葉・東北・関西大学の3大学が合同で実施したJIGE Blended Mobilityプログラムである。国内3大学すべての大学の学生が参加した点も、本事業の連携の意義として十分な実績とすることができたという点以外にも、4週間にわたり実施した3か国間のCOILモジュールも、各大学の教員の参加と貢献により非常に充実した内容となり、さらに現地（タラゴナ市）でのフィールド研修も、3か国の文化背景の異なる学生メンバーがチーム形成をして活動を行うなど、このようなプログラムでしか経験できない学びとなっており、参加した学生たちからの評価も高かった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

【関西大学】 受け入れプログラムも、Blended Mobilityの設計に沿った取組を展開した。オンラインのみでの参加においても、2023年度（後期）に実施したCOIL科目において、海外連携大学との交流学習を積極的に実施した。また、オンラインでの受け入れについては、本事業において海外連携大学として登録しているPortland State University, PIM（タイ王国）,UKM（マレーシア）等とのCOIL科目への参加者数が反映されている。受け入れ予定の数値は、特にオンライン交流学習の形態において、目標とした数値を上回るか近い実績となっている。正課外ともいえる30日未満の受け入れ活動においては、オンライン参加者数が予測値よりも大きく上回ったが、渡航数は伸び悩んだ。この点を鑑み、2024年度は渡航へもつながる受け入れの仕掛けをより強化する所存である。従来から実施しているオンライン型のモビリティによって、受け入れ学生数（渡航した者と、オンラインのみの者を含む）は一定数獲得できているが、本事業で今後も定着を図りたいのはBlended Mobilityである。オンライン型交流学習については、今年度はJV-Campusに提供があるコンテンツも一部取り込んだものに設計し、より多くのリソースを用いて学びを深めるデザインとして提供した。2024年度には、さらにJV-Campusの活用と、双方向型の学びを促進する仕掛けを取り込み、渡航だけではなく、オンライン、そしてハイブリッド形式で参加する受け入れ学生数を増強したいと考えている。 【東北大学】 長年の協定校であるカリフォルニア大学リバーサイド校と連携し、本学の特色ある「国際共修」プログラムをオンラインで実施するなどの取り組みにより、受入人数の目標値を達成することができた。派遣前に事前研修、保険加入の他に危機管理研修、相談会等を行って、事件事故を未然に防ぐ対策をとっている。また実渡航の事前事後に研修を開催し、留学プログラムの学びをより深いものにする仕組みを作っている。外国人留学生の受入れでは、2022年に新たに開設された国際サポートセンターにより、渡航の前段階から来日に至まで、発生する諸手続の支援や情報提供などの一括したサポートを提供している。来日後はプログラム別のオリエンテーションやウェルカムウィークの開催でスムーズな学生生活への導入を図り、その後は留学生ヘルプデスクやメンターによる日常的なサポート・相談体制をとっている。今後も大学をあげて丁寧なサポートを行っていく予定である。 【千葉大学】 オンライン75名、ハイブリッド10名の計85名の学生を受け入れた。ポストコロナ時代に応じた派遣、受入のあり方を模索した。特に、受入についてはインバウンド需要の高まりを受け、宿の確保などこれまで以上の困難さが生じることがわかった。送り出しについても、事前にオンラインでのやり取りが容易になったこともあり、情報共有などはスムーズになった反面、円安の影響は深刻で、安全で快適な宿の手配や適切な航空券の確保という課題が残された。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	19	48	281	280	297	318	315	315	324	334	1236	1295
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	1	11	12	9	6	11	6	12	7	43	32
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	16	36	160	186	179	215	189	215	199	231	743	883
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	3	11	110	82	109	97	115	94	113	96	450	380

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	19	48	281	280	297	318	315	315	324	334	1236	1295
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	1	11	12	9	6	11	6	12	7	43	32
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	16	36	160	186	179	215	189	215	199	231	743	883
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	3	11	110	82	109	97	115	94	113	96	450	380

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	4								
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	0	0								
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

●申請時の計画調書記載人数

●海外相手大学追加調書分

[illegible]

●合計

		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	9	29	156	88	151	106	161	104	171	116
	オンライン	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	6	26	89	60	85	75	85	73	95	85
		3	3	65	26	66	31	76	31	76	31
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	42	23	37	20	36	20	36	22
	オンライン	0	0	4	1	4	0	4	0	4	0
	ハイブリッド	0	0	26	15	27	13	26	15	26	15
		0	0	12	7	6	7	6	5	6	7
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	4	3	6	3	12	3	18	3	17
	オンライン	0	1	3	1	3	2	3	4	3	6
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	5	0	8	0	5
		0	3	0	5	0	5	0	6	0	6
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	10	5	75	57	96	57	105	57	106	57
	オンライン	0	0	0	0	1	0	3	0	4	0
	ハイブリッド	10	5	45	45	65	45	76	45	76	45
		0	0	30	12	30	12	26	12	26	12
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	10	0	50	0	60	0	55	0	60
	オンライン	0	0	0	6	0	2	0	2	0	1
	ハイブリッド	0	5	0	25	0	33	0	30	0	35
		0	5	0	19	0	25	0	23	0	24
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	5	56	10	63	10	61	8	62
	オンライン	0	0	2	2	1	2	1	0	1	0
	ハイブリッド	0	0	0	41	2	44	2	44	2	46
		0	0	3	13	7	17	7	17	5	16

④：【交流形態別 内訳】（実績）

		学生別	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】												
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数			0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	3								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数			0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	1								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数												
	実渡航		0	0								
	オンライン		0	0								
	ハイブリッド		0	0								

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度の活動の中で、実際の数値が動かなかったのがインターンシップ（派遣）の取組である。採択時期が11月に入ったこともあり、米国内の企業などへのインターンシップ構築の交渉のタイミングに遅れが生じたこと、予定をしていた一部の地域での企業の反応が予想外に参加に否定的に転じたことなどが、一部の要因となっている。2024年度に入り、シカゴとノースカロライナ、そしてハワイ州において、企業との話し合いを再開し、日本商工会議所や日本米国協会などにも協力依頼を行うなど、次年度以降に成果を出すべくアクションは2023年度内に開始した。調書計画当初通りの形態でのオンライン・インターンシップではなく、企業側にもよりメリットがある形態のプログラムを構築すべく、現在話し合いを進めている。

【特に優れた取組】

2023年度内には、オンラインインターンシップの中で活用することができるオンライン教育コンテンツ（キャリア教育・日本の企業を理解するシリーズ）が完成しており、英語版についてはJV-Campusで公開もされている（URL： <https://www.jv-campus.org/jvc-content/348826/> 1事例）。日本語による解説版も関西大学において作成を終了しており、このコンテンツは、必要な言語版を、インターンシッププログラムの学習要素に盛り込むことができる。合計約30本の講義動画の構成となっている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度の受け入れは、主にビジネスインターンシップ（北アリゾナ大学等）とのBlended Mobilityによる人数が実績数となっている。オンラインインターンシップのみの参加者については、JV-Campus上のプラットフォーム開発が間に合わず、正式なプラットフォーム機能を用いた実施に至らずとなった。現在2024年度中の完成に向けて開発中であり、年度途中から使用を開始できるよう工事を進めている。これを待たず、オンラインインターンシッププログラムの実施に向けた企業との話し合いを開始し、2024年度に活動実績報告を記述する予定としている。インターンシッププログラムは、2023年度の事業開始時期が年末に近かったこともあり、海外大学の学年歴との兼ね合いもあり構築が遅れ、実際に動き出すまでに年度内にたどり着くことができなかった。2024年度になり、本件は各大学において活動を再開している。

【特に優れた取組】

北アリゾナ大学からの外国人留学生は、J-MCP(Japan Multilateral COIL Program)への参加によりオンラインでの学習を実施し、その後来日し、日本企業についての学ぶ他、2024年度春学期まで、インターンシップも展開する。本プログラムにおけるオンライン活用は、ホーム校においても、来日前の必須活動として条件化するという協力体制を設けることができ、今後もBM形式のプログラムとしての継続が望めることになった。
2023年度の限られた期間の中であったため、3大学すべてにおいてキャリアにつながるインターンシップを取り込んだ受け入れは年度内に実現ができていないため、次年度はこの点を重点化し取り組む必要がある。

(3) その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人

(4) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
(指標1)	3 0	15 10	30 15	40 30	45 30
(指標2)	25	35	65	80	115
(指標3)	55 20	135 90	155 150	165 165	170 180
(指標4)	0	10	20	20	30
(指標5)	0	3	20	25	25

② 2023年度末における目標の達成状況

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
(指標1)	30 0				
(指標2)	54				
(指標3)	22 4				
(指標4)	0				
(指標5)	0				

③ 進捗状況のコメント

キャリア教育コンテンツを中心としたコースをJV-Campus上で構築し、2023年度は30モジュールを開設した。また、「COIL/VE型学びのアトリエ」プロジェクトとして設置したAI x Aging Society Metaverse Programでは、国内で22名、海外から4名の学生が参加し、高齢化社会に対応するソリューションについてメタバース空間を用いて学生同士のディスカッションが行われた。本プログラムがイノベーションを促進だけでなく、メタバース空間をはじめとした各種のテクノロジーが世界中の高齢化人口の幸福を高める上で極めて重要な役割を果たす未来への基礎を築いたことが明らかになった。

【特に優れた取組】

教職員のキャパシティ・ビルディング促進を目的とし、国際化や文化など、幅広いトピックを扱った「International Staff & Faculty Development Program among APAC Universities 2023-2024」では、ホスト校のテイラー大学だけでなく、アジア各国から総勢53名の参加があり、目標数値を大幅に上回った。関西大学職員から5名、千葉大学からも1名の参加があり、JIGEの共同キャパシティ・ビルディングの構築事業第一弾として盛大に開催した。ワークショップは2部構成で、前半は「包括的国際化」に焦点を当て、「大学の国際化を誰が、何を、どのように進めるか」「国際化の定義」についてグループごとに議論した。後半は、参加者全員で「高等教育におけるイノベーションの先導」について議論した。組織におけるイノベーションに必要な目標設定と必要なプロセスを明確にするため、参加者にロールプレイをしてもらうなど、自ら能動的に国際化を促進できる主体となることができるトレーニングを実施した。

(5) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績											
【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】											
(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】										(単位：校)	
単位互換を実施する 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	16	14	37	21	37	22	37	22	37	22	
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】										(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)	
【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】											
1. 代表申請大学 【大学名：関西大学】											
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度				
コーネル大学	認定者数	A	20	83	129	161	198				
	認定単位数		40	166	258	322	396				
コーネル大学	認定者数	B	10	20	34	47	60				
	認定単位数		20	40	68	94	120				
デポール大学	認定者数	A	12	95	134	148	158				
	認定単位数		24	190	268	296	316				
デポール大学	認定者数	B	0	22	30	38	44				
	認定単位数		0	44	60	76	88				
ニューヨーク州立 ファッション工科大学	認定者数	A	5	42	66	86	103				
	認定単位数		10	84	132	172	206				
フロリダ国際大学	認定者数	A	0	40	70	85	114				
	認定単位数		0	80	140	170	228				
フロリダ国際大学	認定者数	B	0	12	26	30	32				
	認定単位数		0	24	52	60	64				
ハワイ大学カピオラニ コミュニティカレッジ	認定者数	A	0	40	70	85	114				
	認定単位数		0	80	140	170	228				
ノースカロライナ州立 大学	認定者数	B	0	11	21	23	25				
	認定単位数		0	22	142	46	50				
北アリゾナ大学	認定者数	B	0	11	21	23	25				
	認定単位数		0	22	42	46	50				
ポートランド州立大学	認定者数	A	0	40	70	85	114				
	認定単位数		0	80	140	170	228				
オハイオ州立大学	認定者数	B	0	10	22	24	26				
	認定単位数		0	20	44	48	52				

【2023年度末における目標の達成状況】											
(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】										(単位：校)	
単位互換を実施した 海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	6	0									
(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】										(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)	
【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】											
(i) 代表申請大学 【大学名：関西大学】											
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度				
コーネル大学	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
コーネル大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								
デポール大学	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
デポール大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								
ニューヨーク州立 ファッション工科大学	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
フロリダ国際大学	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
フロリダ国際大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								
ハワイ大学カピオラニ コミュニティカレッジ	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
ノースカロライナ州立 大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								
北アリゾナ大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								
ポートランド州立大学	認定者数	A	0								
	認定単位数		0								
オハイオ州立大学	認定者数	B	0								
	認定単位数		0								

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ノースカロライナ大学 チャペルヒル校	認定者数	A	0	40	60	75	104
	認定単位数		0	80	120	150	208
ハワイ大学ヒロ校	認定者数	A	0	40	75	100	120
	認定単位数		0	80	150	200	240
ハワイ大学マノア校	認定者数	A	0	40	60	75	104
	認定単位数		0	80	120	150	208
ウェスタン大学	認定者数	A	0	45	80	95	115
	認定単位数		0	90	160	190	230
ケバングサン大学	認定者数	A	0	43	78	93	113
	認定単位数		0	86	156	186	226
サン・ペドロカ・レッ ジ	認定者数	A	0	28	63	78	98
	認定単位数		0	56	126	156	196
南洋ポリテクニク	認定者数	A	0	40	75	100	120
	認定単位数		0	80	150	200	240
CEUカルデナル・エ レーラ大学	認定者数	A	0	43	78	93	113
	認定単位数		0	86	156	186	226
東呉大学	認定者数	A	0	53	88	103	123
	認定単位数		0	106	176	206	246
パンヤピワット経営大 学	認定者数	A	16	58	93	108	128
	認定単位数		32	116	186	216	256
年度別認定者数合計			63	856	1443	1755	2151
年度別認定単位合計			126	1712	2986	3510	4302

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ノースカロライナ大学 チャペルヒル校	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
ハワイ大学ヒロ校	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
ハワイ大学マノア校	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
ウェスタン大学	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
ケバングサン大学	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
サン・ペドロカ・レッ ジ	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
南洋ポリテクニク	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
CEUカルデナル・エ レーラ大学	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
東呉大学	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
パンヤピワット経営大 学	認定者数	A	0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
年度別認定単位合計			0	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

2. 国内連携大学【大学名：東北大学】							
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
カリフォルニア大学	認定者数	A(学部生)	25	45	45	50	55
	認定単位数		50	90	90	100	110
ペンシルベニア州立大学	認定者数	A(学部生)	0	20	20	20	35
	認定単位数		0	40	40	40	70
ノースカロライナ大学シャーロット校	認定者数	A(学部生)	0	40	40	40	40
	認定単位数		0	80	80	80	80
ベイラー大学	認定者数	A(学部生)	10	15	25	30	40
	認定単位数		20	30	50	60	80
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)	11	12	37	42	52
	認定単位数		22	24	74	84	104
モンタナ大学	認定者数	A(学部生)	0	20	35	51	61
	認定単位数		0	40	70	102	122
オハイオ州立大学	認定者数	A(学部生)	5	5	30	33	40
	認定単位数		10	10	60	66	80
テンプル大学	認定者数	A(学部生)	5	10	25	26	31
	認定単位数		10	20	50	52	62
ウォータールー大学	認定者数	A(学部生)	15	35	40	45	50
	認定単位数		30	70	80	90	100
マラヤ大学	認定者数	A(学部生)	21	21	21	21	21
	認定単位数		42	42	42	42	42
年度別認定者数合計			92	223	318	358	425
年度別認定単位合計			184	446	636	716	850

2. 国内連携大学【大学名：東北大学】							
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
カリフォルニア大学	認定者数	A(学部生または大学院生)	33				
	認定単位数		66				
ペンシルベニア州立大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ノースカロライナ大学シャーロット校	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ベイラー大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ワシントン大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
モンタナ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
オハイオ州立大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
テンプル大学	認定者数	A(学部生)	1				
	認定単位数		1				
ウォータールー大学	認定者数	A(学部生)	25				
	認定単位数		50				
マラヤ大学	認定者数	A(学部生または大学院生)	12				
	認定単位数		24				
ハワイ大学マノア校	認定者数	A(学部生)	9				
	認定単位数		18				
カルデナル・エレーラ大学	認定者数	A(学部生)	1				
	認定単位数		1				
年度別認定者数合計			81	0	0	0	0
年度別認定単位合計			160	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：千葉大学】							
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
アラバマ大学	認定者数	A	4	6	7	7	7
	認定単位数		4	6	7	7	7
シンシナティ大学	認定者数	A	5	6	8	8	8
	認定単位数		5	6	8	8	8
ニュースクール大学	認定者数	A	3	4	5	5	5
	認定単位数		3	4	5	5	5
ストーニーブルック大学	認定者数	A	3	4	5	5	5
	認定単位数		3	4	5	5	5
レジャイナ大学	認定者数	A	3	4	5	5	5
	認定単位数		3	4	5	5	5
年度別認定者数合計			18	24	30	30	30
年度別認定単位合計			18	24	30	30	30

2. 国内連携大学 【大学名：千葉大学】							
相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
アラバマ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
シンシナティ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ニュースクール大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ストーニーブルック大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
レジャイナ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
年度別認定単位合計			0	#REF!	#REF!	#REF!	#REF!